

官報

號外 昭和十五年二月十一日

○第七十五回衆議院議事速記録第十一號

昭和十五年二月十日(土曜日)

午後一時二十二分開議

議事日程 第十號

昭和十五年二月十日

午後一時開議

一 紀元二千六百年祝賀上奏書捧呈ノ件

第一 所得稅法改正法律案(政府提出)

第二 法人稅法案(政府提出)

第三 特別法人稅法案(政府提出)

第四 配當利子特別稅法案(政府提出)

第五 外貨債特別稅法中改正法律案(政府提出)

第六 相續稅法中改正法律案(政府提出)

第七 建築稅法案(政府提出)

第八 礦區稅法案(政府提出)

第九 臨時利得稅法中改正法律案(政府提出)

第十 營業稅法案(政府提出)

第十一 地租法中改正法律案(政府提出)

第十二 酒稅法案(政府提出)

第十三 清涼飲料稅法中改正法律案(政府提出)

第十四 砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出)

第十五 織物消費稅法中改正法律案(政府提出)

第十六 揮發油稅法中改正法律案(政府提出)

第十七 物品稅法案(政府提出)

第十八 遊興飲食稅法案(政府提出)

第十九 取引所稅法中改正法律案(政府提出)

第二十 通行稅法案(政府提出)

第二十一 入場稅法案(政府提出)

第二十二 印紙稅法中改正法律案(政府提出)

第二十三 骨牌稅法中改正法律案(政府提出)

第二十四 狩獵法中改正法律案(政府提出)

第二十五 明治四十四年法律第四十五號中改正法律案(砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル件)(政府提出)

第二十六 大正九年法律第五十一號中改正法律案(内地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ内關稅免除ニ關スル件)(政府提出)

關スル件)(政府提出)

第二十七 支那事變特別稅法及臨時租稅增徴法廢止法律案(政府提出)

第二十八 營業收益稅法廢止法律案(政府提出)

第二十九 資本利子稅法廢止法律案(政府提出)

第三十 法人資本稅法廢止法律案(政府提出)

第三十一 臨時租稅增徴法中改正法律案(政府提出)

○議長(小山松壽君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔書記官朗讀〕

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

(第二號) 昭和十四年度歲入歳出總豫算追加案

(特第一號) 昭和十四年度特別會計歳入歳出豫算追加案

(第一號) 昭和十五年度歲入歳出總豫算追加案

(特第二號) 昭和十五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

(追第一號) 豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

昭和十五年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案中修正

(以上二月十日提出)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

青年禁酒法制定反對ニ關スル建議案

提出者 中野 寅吉君

(以上二月九日提出)

一 昨九日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

昭和十五年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

ル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

外五件委員

委員長 紫安新九郎君

理事 宇賀 四郎君

一 昨九日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ

第一部選出請願委員

第一選出懲罰委員

一 紀元二千六百年祝賀上奏書捧呈ノ件

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ閉キマス、諸君、明十一日ハ神武天皇御即位遊バサレテヨリ悠久實ニ二千六百年ノ佳節ニ當ルノデアリマス(拍手) 寶祚ノ無窮天壤ト共ニ彌、榮エ、御聖德四海ニ輝クヲ拜シ奉リ、一億國民ト共ニ洵ニ忻慶ニ勝ヘザル次第デアリマス、茲ニ本院ハ此ノ光輝アル記念日ニ際シ、慶祝ノ意ヲ表スル爲上奏書ヲ捧呈致シタイト思ヒマス(拍手) 上奏文ハ起草委員ヲ設ケ之ヲ起草セシメ、其ノ委員ノ數ハ十八名トシ、議長ニ於テ指名スルニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ノ聲起ル

○議長(小山松壽君) 異議ナシト認メマス、仍テ直チニ委員ヲ指名致シマス

紀元二千六百年祝賀上奏文起草ノ件委員

山道 襄一君 添田 敬一郎君

木村 三三郎君 北原 阿智之助君

信太 儀右衛門君 村上 紋四郎君

鈴木 憲太郎君 熊谷 直太君

河上 哲太君 西田 鏡吉君

陣 軍吉君 安藤 正純君

猪野 毛利榮君 大石 倫治君

鈴木 文治君 樺尾 辨臣君

熊谷 五右衛門君 金光 庸夫君

只今指名致シマシタ委員諸君ハ、直チニ議長應接室ニ御參集相成リ、委員長及理事ノ互選ヲ行ハレ、引續キ起草セラレシコトヲ

望ミマス、暫時休憩致シマス

午後一時二十六分休憩

午後二時四十八分開議

○議長(小山松壽君) 休憩前ニ引續キ會議ヲ開キマス、紀元二千六百年祝賀上奏文起草ノ件、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長山道襄一君

報告書

一紀元二千六百年祝賀上奏文起草ノ件右ハ別紙ノ通起草致候此段及報告候也
昭和十五年二月十日

衆議院議長小山松壽殿 委員長 山道 襄一

〔別紙〕

衆議院議長 臣小山松壽 誠敬謹頓首頓首 謹ミテ奏ス伏シテ惟ルニ

神武天皇辛酉元年 宸極ニ光臨シタマヒテヨリ今茲庚辰ノ歲本月本日方ニ二千六百年ヲ迎ヘ天人慶ヲ同ウシ瑞雲紫陌ニ滿ツ臣等洵ニ懽忻欣慶ニ禁フルナシ謹ミテ按スルニ

神武天皇乾靈國ヲ授クルノ德ニ答ヘ皇孫正ヲ養フノ心ヲ弘メ六合ヲ兼テ都ヲ開キ八紘ヲ掩ヒテ宇ト爲サント宣セラレ不業ヲ千古ニ創メ 大統ヲ萬世ニ垂レタマヒ盛德愈々遠ク愈々顯ハル

皇統連綿奕世民庶ヲ撫育シテ德化ヲ遺シタマヘリ伏シテ以テ

陛下叙聖文武 明治ノ宏謨ヲ承ケ 大正ノ先緒ヲ紹カセラレ日ニ進ミ月ニ新ナルノ國ニ定メ皇道惟神ノ政ヲ施カセタマフ文運内ニ茂シ武德外ニ揚リ臣民雨露ノ仁恩ニ浴シ萬邦日月ノ威光ヲ仰ク今適チ天ニ應シ時ニ處シ範ヲ隣邦ニ與ヘテ東亞ノ大勢ヲ安定シ世界平和ヲ確立ヲ圖ラセラレ 祖宗ノ鴻圖ヲ恢弘シタマヒテ 聖業將ニ成ラムトス億兆皞皞嵩呼心ヲ一ニシテ奉公ヲ期セサルナシ嗚呼

呼應ナル哉臣等民獻ノ責ヲ荷ヒ贊襄ノ任ニ備ハル本日ノ祝節ニ當リ俯仰古今惻款ニ任フルナシ敢テ匪躬ノ節ヲ致シテ聖業ヲ輔翼シ

天恩ノ萬一ニ酬イ奉ラムコトヲ庶幾フ茲ニ虔ミテ

皇統ノ萬世悠久ヲ祝シ 寶祚ノ天壤無窮ヲ祈リ

恭シク表ヲ上リ奉賀以聞ス 臣小山松壽 誠敬謹頓首頓首謹ミテ奏ス

〔山道襄一君登壇〕

○山道襄一君 紀元二千六百年祝賀上奏文起草ノ件、委員長ハ牛刻議長ヨリ指名セラレマシタ後、直チニ議長應接室ニ參集ヲ致シマシテ會議ヲ開キマシタ、先ヅ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒマシタ結果、委員長ニ不肖私ガ當選致シマシタ、理事ニハ北原阿智之助君、信太儀右衛門君、熊谷直太君、大石倫治君ガ御當選ニナリマシタ、引續キマシテ案文起草ノ議事ヲ進メマシタ、慎重協議ノ結果滿場一致ヲ以テ一ノ成案ヲ得マシタ、之ヲ茲ニ朗讀サセテ戴キマス

衆議院議長 臣小山松壽 誠敬謹頓首頓首 謹ミテ奏ス伏シテ惟ルニ

神武天皇辛酉元年 宸極ニ光臨シタマヒテヨリ今茲庚辰ノ歲本月本日方ニ二千六百年ヲ迎ヘ天人慶ヲ同ウシ瑞雲紫陌ニ滿ツ臣等洵ニ懽忻欣慶ニ禁フルナシ謹ミテ按スルニ

神武天皇乾靈國ヲ授クルノ德ニ答ヘ皇孫正ヲ養フノ心ヲ弘メ六合ヲ兼テ都ヲ開キ八紘ヲ掩ヒテ宇ト爲サント宣セラレ不業ヲ千古ニ創メ 大統ヲ萬世ニ垂レタマヒ盛德愈々遠ク愈々顯ハル

皇統連綿奕世民庶ヲ撫育シテ德化ヲ遺シタマヘリ伏シテ以テ

陛下叙聖文武 明治ノ宏謨ヲ承ケ 大正ノ先緒ヲ紹カセラレ日ニ進ミ月ニ新ナルノ國ニ定メ皇道惟神ノ政ヲ施カセタマフ文運内ニ茂シ武德外ニ揚リ臣民雨露ノ仁恩ニ浴シ萬邦日月ノ威光ヲ仰ク今適チ天ニ應シ時ニ處シ範ヲ隣邦ニ與ヘテ東亞ノ大勢ヲ安定シ世界平和ヲ確立ヲ圖ラセラレ 祖宗ノ鴻圖ヲ恢弘シタマヒテ 聖業將ニ成ラムトス億兆皞皞嵩呼心ヲ一ニシテ奉公ヲ期セサルナシ嗚呼

ルノ國ニ定メ皇道惟神ノ政ヲ施カセタマフ文運内ニ茂シ武德外ニ揚リ臣民雨露ノ仁恩ニ浴シ萬邦日月ノ威光ヲ仰ク今適チ天ニ應シ時ニ處シ範ヲ隣邦ニ與ヘテ東亞ノ大勢ヲ安定シ世界平和ヲ確立ヲ圖ラセラレ 聖業將ニ成ラムトス億兆皞皞嵩呼心ヲ一ニシテ奉公ヲ期セサルナシ嗚呼

呼應ナル哉臣等民獻ノ責ヲ荷ヒ贊襄ノ任ニ備ハル本日ノ祝節ニ當リ俯仰古今惻款ニ任フルナシ敢テ匪躬ノ節ヲ致シテ聖業ヲ輔翼シ

天恩ノ萬一ニ酬イ奉ラムコトヲ庶幾フ茲ニ虔ミテ

皇統ノ萬世悠久ヲ祝シ 寶祚ノ天壤無窮ヲ祈リ

恭シク表ヲ上リ奉賀以聞ス 臣小山松壽 誠敬謹頓首頓首謹ミテ奏ス

○議長(小山松壽君) 只今委員長ヨリ御報告ニナリマシタ上奏文案ニ御異議ガナケレバ、敬意ヲ表スル爲御起立アランコトヲ望ミマス

〔總員起立〕

○議長(小山松壽君) 起立總員、上奏文案ハ全會一致可決セラレマシタ

〔拍手起立〕

○議長(小山松壽君) 御決議ニナリマシタル上奏書ハ、宮中ノ御都合ヲ伺ヒマシテ捧呈致シマス

○議長(小山松壽君) 日程第一乃至第三十一ノ三十一案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ、前會ノ議事ヲ繼續致シマス——田万清臣君

第一 所得稅法改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第二 法人稅法案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三 特別法人稅法案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第四 配當利子特別稅法案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第五 外貨債特別稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第六 相續稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第七 建築稅法案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第八 鑛區稅法案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第九 臨時利得稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第十 營業稅法案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第十一 地租法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第十二 酒稅法案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第十三 清涼飲料稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第十四 砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第十五 織物消費稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第十六 揮發油稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第十七 物品稅法案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第十八 遊興飲食稅法案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第十九 取引所稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第二十 通行稅法案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第一讀會(前會ノ續)

第三十一 入場稅法案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三十二 印紙稅法中改正法律案(政府提出)

第二讀會(前會ノ續)

第三十三 骨牌稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三十四 狩獵法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三十五 明治四十四年法律第四十五號中改正法律案(砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル件)(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三十六 大正九年法律第五十一號中改正法律案(内地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅免除ニ關スル件)(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三十七 支那事變特別稅法及臨時租稅增徴法廢止法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三十八 營業收益稅法廢止法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三十九 資本利子稅法廢止法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三十 法人資本稅法廢止法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三十一 臨時租稅增徴法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三十二 臨時租稅增徴法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三十三 臨時租稅增徴法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三十四 臨時租稅增徴法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三十五 臨時租稅增徴法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三十六 臨時租稅增徴法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三十七 臨時租稅增徴法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三十八 臨時租稅增徴法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第三十九 臨時租稅增徴法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

第四十 臨時租稅增徴法中改正法律案(政府提出)

第一讀會(前會ノ續)

レテ居ナイト云フ點ト、其ノ原因ニ付テデゴザイマス、茲ニ御上程ニナツテ居リマス稅制改革案ハ、阿部内閣ノ殘シタ政策ノ一ツデゴザイマス、所ガ阿部内閣ハ何等革新性ヲ持タナイ所ノ内閣デアリマシテ、燃ニルガ如キ國民ノ革新的要望ニ應ヘルコトガ出來ズシテ、遂ニ倒壊致シタノデアリマス、其ノ殘サレタ政策ヲ踏襲サレテ居ルノデアリマスカラ、此ノ稅制案ニ革新性ヲ認メルコトガ不可能デアルコトハ理ノ當然デゴザイマス

是ニ於テ此ノ稅制改革案ヲ批評致シマスルナラバ、是ハ單ニ技術的ニ稅制ヲ整理シタマデノモノデアリマシテ、未ダ稅制改革ノ根本ニ觸レタ言フコトガ出來ナイノデアリマス、稅制改革ノ根本ニ觸レルト云フコトハ、ドウシテモ今日マデ稅制其ノモノヲ支配シテ參リマシタ金融資本ニ觸レナケレバナリマセス、金融資本ニ觸レナレナイ所ノ如何ナル稅制改革案モ、本當ノ意味ノ改革ノ内容ヲ持ツテ居ルモノデ斷ジテナイト斷言スル者デアリマス(拍手)ソコニ於テ、稅制ノ改革ハ、結局ニ於テ金融資本ノ支配カラ脱却スル所ニ眞意ガアルコトヲ諒解シナケレバナラヌノデアリマス、所ガ事變勃發以來今日マデ三年ノ歲月ヲ經過致シテ居リマスルガ、此ノ間ニ於ケル所ノ稅制ノ變遷ヲ顧ミテ見マスルナラバ、先ヅ稅制ノ變遷ト申スヨリハ、増稅ノ變遷ト申上ゲタ方ガ適當デアラウト考ヘルノデアリマス、増稅ノ變遷ハ、結局ニ於ケル直接稅間接稅ヲ通ジマシテ、大衆負擔ノ増大ヲ來シタコトガ眞ノ結果デアリマシテ、而シテ金融方面ニ於ケル結果ハ、其ノ利潤ノ割合ニ比較的課稅ガ輕カッタ云フノガ、過去ニ於ケル事實デアリマス、之ヲ考ヘマスト、非常ニ吾々ハ憤懣ヲ感ゼザルヲ得ナイノデアリマスガ、又茲ニ上程ニナツテ居ル稅制改革案ニ付テ考ヘテ見マシテモ、

ヤハリ同ジ意圖、同ジ方針ト云フモノガ此ノ中ニ織込マレテ居リマシテ、ドウシテモ此ノ金融資本ノ支配ヲ脱却致スコトガ出來ナイノデアリマス、曩ニ大藏省ノ主稅局ノ試案ト云フノガ稅制調査會ニ提出サレマシタガ、其ノ試案ナルモノハ諸君モ御承知ノ如ク、金融資本ニ對シマシテ百パーセントノ遠慮ヲ致シタ案デアリマス、殊ニ第二種所得ニ於テ四割控除ト云フガ如キハ、ドンナ理窟ヲ以テ辯解サレマシテモ、吾々ハ理解スルコトガ出來ナイノデアリマス、何故公債、社債、銀行預金ノ利息、並ニ貸付信託等ノ利益ニ付テ四割ヲ控除シナケレバナラヌカト云フ此ノ理窟——理由ハドウ考ヘテモ出デ來ナイノデアリマス、割切ラウトシマシテモ割切レナイモノガアルノデアリマス、ドウモ官僚ト金融資本トノ間ニハ割切レナイモノガ長イ間續イテ居ルノデアリマスルガ、割切レナイモノハ世間色々ゴザイマスガ、官僚ト金融資本トノ仁義トデモ申シマスカ、何レニ致シマシテモ割切レナイ四割控除ト云フモノヲ認メテ居タノデアリマス(拍手)是ダケヲ考ヘテ見マシテモ金融資本ニ對スル奉仕ト云フモノハ相當大キナモノガアルニモ拘ラズ、其ノ稅制調査會ニ於ケルシテハ、或ハ第二種所得ヲ一般所得稅ニ綜合スルト云フコトニナツテ居タモノヲ、之ヲ選擇主義ニ修正ヲ致シテ居ルノデアリマス、此ノ事ニ付キマシテハ後程ニ詳シク御尋シタイト考ヘマスルカラ、是レ以上ニ觸レナイコトニ致シマス、併シナガラ選擇主義ニ綜合主義ヲ修正致シマシタ結果ト致シマシテ、二千五百萬圓バカリノ收益ガ金融資本ノ方面ニ流レタ譯デアリマス、又法人稅ニ付テモ左様ナコトガ言ヘルト考ヘタノデアリマス、今日日本ノ經濟機構ノ根本カラ之ヲ考ヘテ見マスルナラバ、産業資本ニ致シマシテモ、商業資本ニ致シマシテモ、金融資本ニ依存シテ居ナイモノハ一ツ

モナイノデアリマス、サウ云フ譯カラシテ、法人稅ト云フモノハ金融資本ニ重大ナ關係ノアルコトハ言フ俟タナイノデアリマス、此ノ法人稅ノ所得ノ稅率ニ付キマシテ、百分ノ二十トナツテ居リマシタモノヲ百分ノ十八ニ修正ヲ加ヘテ居ルノデアリマス、之ニ依リマシテ値切ラレタ金額ト云フモノハ、約六千五百萬圓ニ達シテ居ル次第デアリマス、斯様ニ此ノ金融資本ハ、初メカラ遠慮ヲシテ作成サレタ原案ニ修正ニ修正ヲ加ヘテ、何處マデモ飽クナキ心情ヲ表ハシテ居ルノデアリマス、之ニ反シテ一般國民ノ、大衆負擔ト云フモノハ如何ニナツテ居ルノデアリマセウカ、今マデノ稅制ニ於テ見ルヨリモ一層今度ノ稅制改革案ニ於テハ、大衆負擔ガ強化サレテ居ルノデアリマス、殊ニ勤勞所得稅ト云フモノガ大擴張ヲ致サレテ居リマス、ソレニ依リマス、恐ラクハ納稅者ノ數ガ政府ノ言明セラルル所ヲ見マシテモ、二百萬人増加スルコトト考ヘラレルノデアリマス、併シ年收六百圓以上ノ者ガ納稅者トナルノデアリマスルカラ、二百萬人ヤソコヲ増加デナイト私ハ思フノデアリマス、二圓ニ足ラナイ所ノ日給者ガ納稅者ニナルノデアリマス、現在ノ納稅者百八十万ニ加ヘルニ新ニ二百萬ト云フ風ニ政府ハ考ヘテ居ルヤウデアリマスケレドモ、併シナガラ二百萬位デハ止マラズ、相當多數ノ納稅者ノ激増ト云フコトニナリマシテ、課稅ノ分野ノ大擴張ノ根柢ハココニアルノデアリマス、所ガ左様ニ勤勞大衆ニ對スル課稅ノ分野ガ擴張サレタト云フバカリデナシニ、課稅率ト云フモノガ比例率デゴザイマスカラ、年俸五千圓ノ勤勞官モ、日給二圓ニ足リナイ勞働者モ、同ジ率デ税金ガ課セラレルト云フコトハ、是亦ドシナ言葉ヲ以テ致シマシテモ諒解スルコトハ出來マセス、五千圓ノ勤勞官ガ御作リニナツタ原案デアリマスカラ已ムヲ得ナイト致シ

マシテモ、餘リニ露骨ニ日給二圓足ラズノ勞働者モ、年俸五千圓ノ勅任官モ、同ジ率ニ課稅スルト云フコトハ、國民全體ガ承知スルコトガ出來マセヌ、非常ナ不滿ヲ持ツテ居ルト私ハ考ヘルノデアリマス、斯様ニ大衆課稅ノ方向ハグン／＼進メラレマスガ、一般勤勞大衆ノ生活狀態ヲ考ヘテ見マスト、事變以來ノ物價騰貴ニ依リマシテ二割三割ノ生活ノ壓迫ヲ受ケテ居リマス、此ノ點カラ見マスナラバ、日常生活ニ於キマシテ既ニ所得金ノ二割三割ノ事變稅ヲ課ケラレテ居ル譯デアリマス、斯様ナ譯デ既ニ二割三割ノ事變稅ヲ拂ツテ居ル狀態デアリニモ拘ラズ、勤勞所得稅ノ大擴張トナツテ、非常ニ負擔ガ増加シテ來ルト云フ結果ニナルノデアリマス、所ガ此ノ納稅ニハ出來ルダケ納稅者ヲ多ク致シマシテ、國民ノ愛國心ヲ強化スルノデアルト云フコトガ傳ヘラレテ居ルノデアリマス、然レドモ、日本國民ハ租稅ニ依ラナクテモ、然エルヤウナ愛國心ヲ持ツテ居ルト云コトハ、何人モ疑フ容レマセヌ、寧ロ國民ハ政府ニ對シマシテ、此ノ稅制改正ノ諸法案ニ見ルガ如キ、金融資本トノ抱合政治ヲ清算シテ、眞ニ國家ヲ本位トスル所ノ愛國政治ヲ昂揚サレンコトヲ希望シテ居ルノデゴザイマス、尙ホ其ノ他ニ一般國民ノ大衆負擔ナルベキモノニハ、間接消費稅ノ大増稅ガアルノデアリマス、酒稅、清涼飲料稅ノ三割増稅ヲ初メト致シマシテ、砂糖消費稅ノ二割ノ増稅、更ニ織物消費稅、通行稅、入場稅等其ノ増稅ヲ合算致シマスナラバ、約二億三千万圓ノ大増稅ガ行ハレコトニナルノデアリマス、昔カラノ言葉デアリマスガ、菜種ノ油ト税金ハ、搾レバ搾ル程出テ來ルト云フコトガアリマスガ、斯様ナ見地カラ考ヘラレタノデナイデセウケレドモ、餘リニ大衆増稅ガキツ過ギル、而シテ金融資本ニ對スル稅金ハ輕過ギルノデ、稅制改革ト

云フ名デアリマスケレドモ、舊態依然トシテ、何等ソコニ根本的ナ改革ガ見ラレナイト斷言シテ憚ラナイノデアリマス、政府ハ斯ル戰時下ニ於テこそ、國民ヲ基礎ト致シマシテ、金融資本ノ支配ヲ斷乎粉碎スル絶好ノ時期デアルト考ヘルノデアリマス、然ルニ事茲ニ出ズシテ以上申上ゲタウナ舊態依然タル非革新的態度ハ、洵ニ遺憾ト致ス所デゴザイマス、其ノ他負擔ノ均衡ノ取レナイ事例ト致シマシテハ、或ハ各所得間ノ不均衡デアルトカ、各階層間ノ不均衡デアルトカ、各地方間ノ不均衡デアルトカ、洵ニ不均衡ノ事例ト云フモノハ枚舉ニ遑ナイノデアリマス、政府ハ此ノ稅制改正諸法案ニ於キマシテ、負擔ノ均衡ヲ一枚看板ニ致シマシテ、一ニモ負擔ノ均衡、二ニモ負擔ノ均衡ト申シテ居リマスケレドモ、負擔ノ均衡トコロカ、負擔ノ大不均衡デゴザイマス、此ノ負擔ノ不均衡ノ深刻ナル實情ヲ大藏大臣ハ如何ニ御覽ニナリマスカ、此ノ負擔ノ不均衡ヲ來シタ根本原因ハ、即チ政府ハ歴史的ニ抵抗ノ強イ金融資本ノ前ニ屈服シテ、抵抗ノ弱イ一般國民ニハ勇敢ニ犧牲ヲ要求スル所ニアルト考ヘルノデアリマス、以上二ツノ點ニ付テノ政府ノ所信ヲ承リタイト考ヘルノデゴザイマス

第三ニハ第一ノ質問ノ中ニアリマシタ綜合課稅ノ問題ニ付テ重ネテ政府ノ所信ヲ明ニシタイト考ヘルノデアリマス、現行ノ第二種所得稅ニ對スル綜合課稅ノ要望ハ實ニ久シキモノガアリマス、今日トナツテハ之ニ反對スル者ハ金融資本以外ニハゴザイマス、折角ノ稅制改革モ、綜合課稅ヲ斷行スルノデナケレバ、何等ノ革新モ期待スルコトガ出來ナイノデアリマス、即チ綜合課稅ヲ斷行シナケレバ、金融資本ノ本體ニ觸レルコトガ出來ナイノデアリマス、今日我國ノ非常時局ガ要望致スモノハ、財政膨脹ノ現狀ガ恒久化スルト云フコトハ已ムヲ得マセヌガ長期財政計畫ヲ整備致シマシテ、之ニ即應スル所ノ恒久的稅制ヲ產ミ出シ、長期建設ニ對應スル財政計畫ヲ完成スルニアルノデアリマス、併シナガラ最前モ申シマス通り、公社債、銀行預金ノ利息及ビ貸付信託ノ利子等ノ收入金額ニ對シマシテ、四割ノ控除ヲシタ上ニ、綜合主義ヲ選擇主義ニ變更致シマシタ爲ニ、事實上二万五千圓以上ノ所得者ニハ、綜合稅ガ行ハレナイト云フ狀態ニナツタノデアリマス、戰時體制下ニ於キマシテ、スル金融資本ヲ擁護スル課稅方針ト云フモノハ、一般國民ハドウシテモ承服スルコトガ出來ヌノデアリマス、國民ハ燃エルヤウナ反感ヲ堅持致シテ居リマス、斯様ニ大多數ノ國民ガ不滿ヲ持ツテ居リ、大多數ノ國民ガ納得ガ行カナイヤウナ内容ヲ包藏スル所ノ稅制法案ト云フモノハ恒久性ヲ持チマセヌ、必ズ近キ將來ニ於テ崩壞スルノ已ムナキ實情ニアルノデアリマス、斯様ナ譯デアリマスカラ、長期財政計畫ト云フモノハ、現下非常時局ノ要望スル長期財政政策ノ根本ヲ成ス恆久稅制ト云フモノガ、

其ノ一角カラ崩レルト云フコトニナリマシテ、長期財政計畫ハ斷ジテ立チマセヌ、故ニ此ノタビニ此ノ綜合課稅ヲ採用シナイデ選擇課稅ニシタコトハ、戰時稅制ノ弱點ヲ暴露シテ居ルノデアリマシテ、洵ニ寒心ニ堪ヘナイ所デアリマス、大藏事務當局ガ稅制理論ノ一貫性ヲ主張致シマシテ、第二種所得ノ一般所得稅ヘノ綜合主義ヲ採用シタニモ拘リマセズ、事務當局ノ政治的ニ指導スベキ前藏相ガ、遂ニ選擇主義ニ方針ヲ變更致シマシテ、事務當局ノ眞摯ナル理想ヲ金融財閥ノ恫喝ノ前ニ蹂躪ツタノデアリマス、櫻內藏相ハ前內閣ノ官僚獨善ヲ排撃シタ政黨ノ一人デアリマス、スル經歴ヲ持ツ櫻內大藏大臣ハ、金融資本ト抱合シテ、官僚獨善ヲ招キマシタ青木前藏相ノ衣鉢ヲ踏襲スル管ガナイト確信致シマスルガ、本案ノ選擇主義ヲ綜合主義ニ還元スルノ意思ガアルカドウカラ明ニシテ戴キタイノデアリマス(拍手)

第四ニハ物品販賣業者ノ營業稅ニ付テ大藏、商工兩大臣ノ所信ヲ御伺シタイト考ヘルノデアリマス、統制經濟ノ進展ハ今日ニ於キマシテハ、既ニ物品販賣業者、即チ商業者ヲシテ公定價格ヲ商品ヲ仕入レテ、之ヲ公定價格販賣スル段階ニ達セシメテ居リマス、即チ商人ヲシテ、今日ニ於キマシテハ「コンミッション・マーチャント」タラシメテ居ルノデアリマス、今マデハ所謂差益商人トシテノ立場ガアツタノデアリマスケレドモ、今後ノ商人ハ手數料商人トシカナリ得ナイノデアリマス、安ク物ヲ買ヒマシテ、高ク賣ツタト云フ自由主義時代ノ商業原則ト云フモノハ、全ク地ヲ拂ハント致シテ居リマス、是ハ商業ノ實質ニ變化ガ參ツタノデアリマシテ、安ク買ウテ高ク賣ルト云フ商業ガ、ソコニ特殊ノ商業利潤ノ存在ヲ推測セシメマシテ、營業稅設定ノ根據ヲ與ヘタコトハ、首肯スルコトガ出來ルノ

デゴザイマス、併シナガラ公定價格デ物ヲ買ウテ、公定價格デ賣ル現在ノ統制經濟時代ニ入りマシテハ、何等カノ變更ヲ加ヘナケレバナリマセス、以上申上デマシタ如ク、商業ガ「コンミッショナリー」トナツタ以上ハ、其ノ商業利潤ト云フモノハ、明ニ商品流通ヲ掌ル者ノ「パブリック・サービス」ニ對スル報酬トシテ考ヘルベキデアリマス、法律ニ定メラレタ價值デ買ウテ、法律デ定メラレタ價值デ賣ルノデアリマスカラ、全ク「パブリック・サービス」ノ本質ヲ持ツテ居ルノデアリマス、斯様ニ考ヘ來リマスナラバ、官吏ノ行政事務、會社員ノ會社事務ト同ジヤウナ「パブリック・サービス」ノ本質ヲ持ツノデアリマスカラ、ソレ等ノ人々ガ受ケル俸給ト云フモノトハ、實質的ニ區別スルコトハ出來マセス、所ガ官吏トカ、或ハ會社員トカ云フ人々ニ付キマシテハ、勤勞所得稅ダケガ課ルノデアリマシガ、物品販賣業者ニハ事業所得稅ノ外ニ、營業稅ガ賦課サレルコトニナルノデゴザイマス、是ハ自由主義時代ノ觀念デアリマシテ、今日ニ於キマシテハ、サウ云フ二重稅ヲ徵收スルコトハ如何カト考ヘルノデアリマス、今日中小商工業者ヲ救済スルコト云フ聲ハ、到ル處ニ滿チテ居ルノデアリマシテ、政府ニ於キマシテモ中小商工業振興調査會ト云フモノヲ設ケマシテ、今日ニ至ツテ居ルノデアリマス、併シナガラ一方ニ於テ、ドウモ可哀相ダ、何トカシテヤラナケレバナラスト言ヒマシテ、左ノ手デ頭ヲ撫デテ居ルカト思フト、右ノ手デ税金ヲギユツト取ルト云フヤリ方デアリマシテ、斯様ナリ方ハ國家ノ方針ト致シマシテハ、如何カト考ヘルノデアリマス、今日現在ノ商業ノ本質カラ考ヘ、統制經濟ヲ徹底スル上カラ考ヘテ見マシテモ、營業稅ノ撤廢ト云フコトハ當然デゴザイマシテ、此ノ點ニ關スル大藏大臣並ニ商工大臣ノ御意

見ヲ承リタイノデゴザイマス(拍手)
第五ニハ個人財産稅ニ付テ御尋シタイト考ヘマス、御承知ノ如ク今日稅制體系トシテ考ヘラレルモノハ、一ツハ所得稅ヲ中心ト致シマシテ、財産稅ヲ補完稅トスル所ノモノデアリマス、今一ツハ所得稅ヲ中心ト致シマシテ、收益稅ヲ補完稅ト致スル所ノモノデアリマス、更ニ一ツハ分類所得稅ト一般所得稅ト併用スル所ノ制度デゴザイマス、以上ノ三ツノ稅制體系ガアルノデアリマスガ、現在日本ニ行ハレテ居ル體系ハ、所得稅ニ收益稅ヲ補完稅トスルモノデアリマシテ、是ハ既ニ行詰ツテシマヒマシテ、稅制改革ノ聲ガ起ツテ、今日稅制改革案ガ提出サレテ居ルヤウナ有様デアリマス、今一ツハ茲ニ原案トナツテ居リマス分類所得稅ニ、一般所得稅ヲ併用スル體系デアリマシテ、是ハ非常ニ矛盾ガ多イノミナラズ、到底負擔ノ均衡ヲ期シ得ナイモノデアリマシテ、其ノ點ニ付キマシテハ既ニ私が指摘ヲ致シテ置キマシタカラ、是以上ニ申上デマセス、ソコデ殘リマスモノハ所得稅ヲ中心ト致シマシテ、財産稅ヲ補完稅トスル體系デアリマスガ、之ニ依ツテ初メテ資產重課ノ目的ヲ達スルコトガ出來ルノデアリマス、收益ノアル財産ニモ、無收益ノ財産ニモ、一定ノ課稅ヲスルコトガ出來ルノデアリマシテ、一般國民大衆ノ生活ヲ抑壓スルト云フコトハ、絕對ニアリマセス、是ハ理論的ニモ一貫シテ居リマスシ、洵ニ明快ナ稅制デアルト考ヘルノデアリマス、現在ニ於キマシテ獨逸ガ之ヲ採用致シマシテ、相當ノ成績ヲ擧ゲテ居ルコトハ、諸君モ御承知ノ通りデアリマス、又我國ニ於キマシテモ曩ニ第七十回帝國議會ニ、時ノ馬場藏相ガ提案ニナリマシテ、諸君モ能ク御存ジノ通りデアリマス、所ガ今日政府ガ低物價政策ヲ執リマシテ、物價ノ騰貴ヲ抑壓シテ居リマスケレドモ、統制ニ掛ラナイ財産ガ

相當多イノデアリマス、不動産ニ致シマシテモ相當ノ暴騰ヲ見テ居ルノデアリマス、其ノ他種別ヲ申上ゲルナラバ數限リナイノデアリマスガ、兎ニ角事變ノ爲ニ相當財産ノ價格ガ暴騰シテ居ルコトハ事實デアリマシテ、之ニ依ツテ不勞所得ヲ形成致シテ居ルノデアリマス、之ニ對シマシテ税金ヲ課ケルコトハ當然ノコトデアリマシテ、何等異議ヲ挾ム者ハナイト考ヘルノデアリマス、ソコニ於テ私ハ原案デアアル所ノ分類所得稅ト、一般所得稅ヲ併用スル所ノ此ノ體系ヨリモ、私が今申上デマシタ所得稅ヲ中心トシテ、財産稅ヲ補完稅トスル體系ノ方が、餘程徹底シテ居ルト考ヘルノデアリマスガ、藏相ニ於カレマシテハ今ノ私が申上ゲタ體系ニ、原案ヲ變更スルノ意思アリヤ否ヤヲ御同シタイノデアリマス
次ハ第六デゴザイマスガ、重要産業ニ對スル一般の免稅ニ付テ御尋シタイノデアリマス、私ハ重要産業ニ對スル一般の免稅ニ付キマシテ、非常ニ遺憾ニ考ヘテ居ルノデアリマス、現在國稅ノ免除ヲ受ケテ居ル産業ノ種別ハ相當ニ多イノデアリマス、例ヘバ重要物產製造業、製鐵事業、自動車製造事業、アルコール製造事業、人造石油製造事業、硫酸「アンモニア」製造事業、工作機械製造事業、航空機製造事業ト云フヤウナ譯デアリマシテ、主ナル軍需工業ニハ免稅ノ恩典ノ及ンデ居ナイモノハ一ツモナイト申上ゲテモ過言デハゴザイマセス、資本主義ヲ初メ日本ノ國ニ移植ヲ致シマシテ、此ノ資本主義ヲ助長發展セシメヨウト云フ時代ニハ、免稅政策ニ依リマシテ生産ヲ刺激シテ、生産ヲ増加ヲ圖ルコトハ考ヘルコトガ出來ルノデアリマス、所ガ今日ニ於キマシテハ、資本主義ハ高度ノ段階ニ發達ヲ致シマシテ、謂フ所ノ獨占資本主義ノ段階ニ達シテ居ルノデアリマス、斯様ナ時代ニ於キマシテハ重要産業ハ獨占サレ、重要ナ資源ハ獨占サ

レテ居ル有様デアリマスカラ、免稅ハ徒ニ獨占資本家ヲシテ特別利潤ヲ享樂セシメテ、何等生産増加ニナツテ居ナイト云フコトハ、世上既ニ知ル所デゴザイマス、商工當局ハ一昨來特別利潤ノ上ニ眠ツテ居ル產金業者ニ對シマシテ、產金ヲ督促スル爲ニ各鑛山別生産所定量ト云フモノヲ決メマシテ、生産ノ督促ヲ致シタノデアリマス、今日重要鑛產物、或ハ重要工業ノ生産力ノ増加ト云フコトハ、國內的ニ考ヘテ見マシテモ、國防的ニ考ヘテ見マシテモ、喫緊事デアアルコトハ言フ俟チマセス、今日ハ物資ヲ生産スルコトガ一番重要ナ國策デアアル、生産ノ擴充ト云フモノハ事變以來一貫シタ國策デアリマス、所ガ諸君、特別ノ保護恩典ノ上ニ強大資本ヲ眠ラセル爲ニ免稅スルコトハ、絕對ニイケナイ、却テ此ノ免稅政策ヲ以テ重要産業家ヲ刺戟シマシテ、物資ヲウヘント増産セル方向ニ轉換スベキデアルト考ヘルノデアリマス、ソコデ產金業者ニ對シテ商工當局ガ、生産所定量ヲ既ニ決メテ居リマスガ、是ト同様ニ他ノ産業ニ付キマシテモ、是々ノ生産ヲセヨト一定量ヲ決メテ、此ノ一定量ヲ生産シタ者ニハ免稅ヲシテヤリ、重大ナ理由ナクシテ此ノ一定量ニ達シナイ者ニハ、免稅スル必要ガナイ、斯様ニ私ハ考ヘルノデアリマス、一定量ニ達スレバ免稅トナルナラバ、業者ハ全力ヲ其ノ一定量ノ生産ニ注グ結果ニナリマス、即チ我國ノ現狀ハ免稅政策ヲ以テ生産ヲ擴充シ、生産ヲ増加スル方向ニ轉換シナケレバナラヌ時機ニ到達シテ居ルト考ヘルノデアリマス、此ノ點ニ關スル法規ノ改正ヲ斷行スル意思ガアルカドウカラ、大藏大臣並ニ商工大臣ニ御同致シタイノデアリマス
次ニ第七デゴザイマスガ、戰時利得ニ付テ政府ノ所信ヲ伺ヒタイト考ヘルノデアリマス、支那事變勃發以來、所得ノ推移ヲ顧

ミマス、國民所得ニ付テノ材料ガ手許ニアリマセヌカラ、其ノ點カラ中上ゲルコトハ出來マセヌ、併シナガラハ藏省ノ主管スル三種所得金額ノ調ト云フモノガアリマスカラ、之ニ就テ調ベテ見マス、斯ウ云フ數字ガ現ハレテ居ルノデアリマス、昭和十一年度第三種所得決定額ハ二十五億三千三百萬圓、昭和十二年度ノ同決定額ハ二十九億二千二百萬圓、昭和十三年度ノ同決定額ハ三十八億九千九百萬圓、昭和十四年度ノ同決定額ハ四十五億六千萬圓、以上デゴザイマシテ、即チ支那事變ノ前年度デアリマス昭和十一年度ト、事變後三年經ツタ昭和十四年度ト比較致シマス、所得ハ二十五億カラ四十五億ニ飛躍致シテ居リマス、實ニ二十億ト云フ殆ド倍額ニ近イ激増ヲ示シテ居ルノデアリマス、是ガ人口一億ノ中デ僅カ八百八十萬ノ所得ノ増加デアリマス、併シナガラ其ノ半面ニ於キマシテ、此ノ事變下ニ於テ俸給生活者、勞働者、ソレ等ノ人々ノ家計收支ノ狀態ハドウデアアルカト申シマス、政府ハ中々此ノ家計收支ノ狀態ヲ發表致シマセヌガ、昭和十二年度分ト云フモノガ、昨年ノ秋初メテ公表サレテ居ルノデアリマス、之ヲ見マスルト俸給生活者及ビ勞働者諸君ノ家計ノ狀態ト云フモノハ、既ニ政府ニ於テモ此ノ報告書ニ依ツテ御承知ノ通り、餘裕ナシト云フヨリハ、寧ロ赤字ノ生活ヲシテ居ルコトニナツテ居ルノデアリマス、支那事變發生以來、機會アル毎ニ提案サレマシタ増額ハ、純増額トシテ見ラルモノハ、約五億圓ト申上ゲルコトガ出來マセウ、而モ其ノ増額ノ中ニハ一般國民大衆ガ負擔スベキ間接消費稅モ増徴サレテ居ルノデアリマスガ、事變後僅カ三年ノ間ニ二十億ノ超エル所得ノ増加ヲ得テ居ル階級ニ、五億ノ増額全額ヲ負擔サセマシテモ、苛酷ト云フコトハ斷ジテ言ヘマセヌ、而モ此ノ大所得ハ大陸ニ活躍サレテ居ル將

兵各位ノ護國ノ精神ノ發揮ガ、銃後ニ肅ラシタモノデアアルコトヲ考ヘテ見マスルナラバ、愛國ヲロニスル政治家ハ戰時利得ヲ全部國庫ニ納メル位ノ決斷ガ必要デアアルト考ヘルノデアリマス(拍手)又大所得者ニ於キマシテモ、愛國心ノ上ニ立ツテ自ら進ンデ之ヲ國家ニ返還スルコト云フ態度ニ出ヅベキデアリマス、又斯ル大キナ所得ヲ民間ニ放置シテ置クコトハ、惡性「インフレーション」重要ナル要素ヲ放置スルコトニナルノデアリマスカラ、此ノ際政府ハ戰時大所得ニ對シテ劃期的ナ大増稅ヲ斷行致シマシテ、間接消費稅ヲ引下ゲテ、眞ノ低物價政策ヲ行ヒマシテ、戰時國民生活ノ確保ニ努ムベキデアルト考ヘルノデアリマスガ、政府ハ此ノ點ニ付キマシテ如何ナル考ヲ持ツテ居ラレカ、特ニ明快ナル御答辯ヲ御願スル次第デアリマス、以上ガ私ノ質問デゴザイマス、尙ホ地方稅其ノ他ニ付テモ伺ヒタイ點ガ多クアルノデアリマスガ、是ハ何レ他ノ機會ニ御質問申上ゲルコトニ致シマシテ、本日は是デ私ノ質問ヲ打切ルコトニ致シマス(拍手)

(國務大臣櫻內幸雄君登壇)

○國務大臣(櫻內幸雄君) 只今ノ御質疑ニ對シテ御答辯申上ゲマス、第一ニ今回ノ稅制改革ヲ致スノニハ金融資本ニ「メス」ヲ入レナケレバイカス、此ノ點ニ付テ缺點ガアルデハナイカト云フ御話デアリマス、金融資本ト仰セラレルノハ所謂產業資本ヲ含ンダコトデアラウト思ヒマスガ、今回ノ増稅ハ此ノ資本家階級ノ負擔ニ付キマシテハ十分ニ考慮ヲ致シマシテ、所謂資本家階級ノ方ニ多クノ増稅ヲ致シタノデアリマス、同時ニ一般大衆ノ方ノ方々カラモ、多少ノ負擔ヲシテ戴クコト云フ見地カラ此ノ案ヲ作ツタノデアリマス、金融資本ニ關スル問題ノ觀點カラ、第二種ノ社債及ビ公債ノ利子ヲ何故ニ綜合課稅ニ入レズシテ、入レル場合ニ

於テハ四割ノ控除ヲ致シ、又選擇主義ヲ採ツテ百分ノ十五ト云フ稅金デ之ヲ見逃シタカト云フ御話デアリマスガ、是ハ御承知ノ通り從來ハ低イ稅率デアリマシタノデ、此ノ度ノ改正ニ依リマシテモ非常ナル増額ニナリマスノデ、是レ以上此ノ際急激ニ増加ヲ致シマスコトハ、色々ナル金融政策ノ上ニ支障ヲ起ス虞ガアルノデアリマス、例ヘテ申セバ公債政策ノ上ニ於テモ、公債ヲ持タル方ガ當初ノ調査會ニ出シマシタ案ノ如ク致シマス、殆ド人ニ依リマシテハ資本ノ利子ガ一朱台ニ下ルヤウナモアルノデアリマシテ、左様ナコトガ起リマシタ場合ニ於テハ、此ノ公債政策ノ遂行上差支ヲ起スノデアリマス、故ニ御趣旨ハ私共同意デアリマスガ、今日ノ現狀ニ於キマシテ左様ナ急激ナル増稅ヲ金融資本家ニ課スルト云フ事柄ハ適當デナイト考ヘマシテ、臨機ニ斯様ナ手段ヲ執ツタノデアリマス

ソレカラ間接稅ニ可ナリ多ク課ケテ居ル上ニ、物品稅ニ澤山ノ増稅ヲ致シテ居ルガ、是ハ物價騰貴ヲ招クデハナイカ、又同時ニ豫算ノ實行ガ出來ナイデハナイカト云フ御意見デアリマスガ、此ノ度ノ物品稅其ノ他ノ消費稅ノ方ニ付キマシテハ、大體ニ於テ奢侈的ナ物品ニ重キヲ置キマシタ、國民生活ニ直接關係アル方面ニ付キマシテハ、ソレヲ考慮ニ入レマシテ多ク取ラスコトニ致シタノデアリマス、其ノ點ニ付キマシテハ相當明瞭ニナツテ居ルノデアリマス

前ニ返リマスガ、第二種綜合課稅ヲ原案ニ還元スルノ考ハナイカト云フ御話デアリマスガ、今日只今ノ所左様ナ考ハ持ツテ居リマセヌ

現下ノ商業者ハ殆ド賣値ト仕入値トヲ制限セラレテ居ツテ、手數料ヲ取ル營業ノヤウニナツテ居ル際デアルカラ、是等ニ對シテ増稅ヲ致スコトハ甚ダ當ヲ得ナイデハナイカト云フ御意見ノヤウデアリマスガ、御

承知ノ通り營業ニ付キマシテ具サニ考ヘテ見マス、一部ハヤハリ資本所得ガ含マレルノデアリマシテ、單ニ勤勞所得ト云フバカリデハナイノデアリマス、營業稅ハ御承知ノ通り地方稅ノ獨立財源ト致シマシテ、應益的ナ課稅ヲ行ツテ居ルノデアリマシテ、此ノ際今回提案致シタ程度ノ負擔ヲシテ戴クコト云フコトハ、大ナル障礙ハ起サスト思フノデアリマス

財產稅ニ付テノ御意見ガアリマシタガ、是ハ若シ適當ナル方策ニ依リマシテ、財產稅ト云フコトヲ行フコトガ出來マスナラバ、是ハ相當稅收ヲ得ル譯デアリマシテ、適當デアラウトハ考ヘマスケレドモ、御承知ノ如ク財產稅ハ元本ニ課ケル稅金デアリマスカラ、働キヲシナイ財產ニモ課ケル結果ト致シマシテ、高率ナ課稅ヲ致スコトガ出來ナイ點ガアリマスノト、課稅方法ニ付テ種々非常ニ面倒ナ點ガアリマスノデ、是ハ考究スル爲ニ今回ハ提案ヲ致サナカツタ譯デアリマス

ソレカラ主ナル重工業ニハ免稅トカ其ノ他特典ヲ與ヘテ居ルガ、是ハ誤ツタ政策デハナイカ、斯ウ云フ御話デアリマスガ、申スマデモナク今日生産擴充ヲ致スコトハ最も必要ナ事柄デアリマス、其ノ際ニ於テ特ニ此ノ重工業方面、國防力ヲ充實スル上ニ於テハ、ドウシテモ其ノ發展ヲ期サナケレバナラスノデアリマスガ、之ニ付テハ適當ナル保護ヲ致シマセスト、從來カラノ例ニ依リマス、一時非常ニ盛デアツテモ直グ其ノ反動ノ來ルコトヲ惧レマシテ、企業者ハ容易ニ企業ヲ致シマセヌ、故ニ此ノ點ニ付キマシテハ相當注意ヲ拂ヒマシテ、適當ナル恩典ヲ與ヘルコトニ致シテ居ルノデアリマス、増產獎勵ニ關シテハ、増產ノ部分ニ對シテ獎勵ヲ致スコト云フコトガ適切ナル方法デアルト思フガ、サウハ考ヘナイカト云フ御質問デアリマス、ソレハ御説御尤モ

ナコトデアリマシテ、或ルモノニ付キマシテハ増産部分ニ付テノミ獎勵金ヲ出ス場合モアリマス、併シナガラ事業ノ性質ニ依リマシテハ、全體的ニ獎勵ヲ行ツテ行カナケレバナラヌモノ、モアルデアリマシテ、即チ其ノモノ其ノモノニ付テ獎勵法ヲ適當ニヤツテ行クト云フコトガ、一番宜イデハナイカト考ヘルデアリマス

最後ニ戰時利得ニ對スル所ノ稅ヲ、モツト徹底的ニ取ツテハドウデアアルカト云フ御意見デアリマスガ、是ハ今日ノ如キ場合ニ於キマシテ、戰時利得ニ對シマシテハ出來ル限り多クノ負擔ヲシテ戴クト云フ事柄ハ、全ク私共モ御同感デアリマス、併シナガラソレハ程度ノ問題デアリマシテ、此ノ戰時ノ際ニ於キマシテノ利得、即チ此ノ戰時ニ際シテ利得シテ居ル金ニ對シテ、殆ド全部ヲ取ツテ行クト云フ風ナコトハ出來ナイノデアリマス、今回ノ増稅案ニ付キマシテモ此ノ戰時利得ニ付キマシテハ、可ナリ重イ負擔ノ稅ガ課ケテアルノデアリマシテ、今回ノ提案ノ程度デ私ハ宜イノデハナカラウカト思ツテ居リマス、今後消費稅ナドヲ輕減致シテ、サウシテ國民生活ニ寄與スルコトニ對シテ考ヘスカト云フ御話デアリマスガ、出來得ル限り斯ノ如キ消費稅等ハ輕減致シタイノデアリマス、併シナガラ今日ノ時局全ク已ムヲ得ナイ關係上、茲ニ今回ノ如キ稅ノ改正案ヲ出シテ譯デアリマスカラ、此ノ點ハ御諒解ヲ願ヒタイト思ヒマス(拍手)

(國務大臣藤原銀次郎君登壇)

○國務大臣(藤原銀次郎君) 只今私ハ豫算總會ニ出席シテ居リマシタノデ、田方君ノ御質問ノ御趣旨ヲ詳細拜聽スル機會ヲ得マセスコトハ洵ニ遺憾ニ存ジマス

第一ノ御質問ノ間接稅ノ增加ハ國民ノ負擔ヲ増スノデハナイカ、斯ウ云フ御趣旨ノ御質問ノヤウニ承ツテ居リマスガ、如何ニ

モ御説ノ如ク間接稅ノ増加、例ヘテ申シマスレバ煙草ノ値上ノ如キハ、一般大衆ノ負擔ノ増加ヲ來シタト云フコトハ事實デゴザイマス、併シナガラ此ノ非常時ニ於キマシテハ、國民一般モヤハリ多少辛抱シテ戴クヨリ外仕方ガナイデハナイカト存ジマス

尙ホ又其ノ次ノ中小工商業者ニ對シマシテ、所得稅ト營業稅ヲ課スルコトハ——統制ガ益、強化セラレマシテ、中小工商業者ガ種々ノ困難ニ遭遇シテ居ルヤウナ狀況デアルカラ、營業稅ヲ廢止スル意思ガナイカト云フヤウナ御尋ノヤウデゴザイマシタガ、私モ中小工商業者ノ立場ニ對シテハ十分ノ同情ヲ表シテ居ル者デゴザイマス、併シナガラ營業所得ハ資產ノ要素モアルノデアリマシテ、勤勞所得トハ聊カ趣ヲ異ニシテ居ルノデアリマスカラ、稅法ノ上カラ申シマシテ、是モヤハリ辛抱ヲ願フ外仕方ガナイノデハナイカト存ジテ居ルノデアリマス

又重要産業ニ對スル免稅關係ニ付テ御尋デゴザイマスガ、田方君ノ御説ハ、重要産業ニ付テハ一定量ノ生産ヲ爲シタル場合ニ於テノミ免稅シ、然ラザル場合ニ於テハ徵稅スベシト云フヤウナ御論ノヤウニ拜承シマシタガ、是ハ大藏大臣カラ既ニ御答辯モアリマシタ通りデアリマシテ、私ト致シマシテハ生産ガ一定量ニ達スルト達セザルトヲ問ハズ、等シク生産界ニ貢獻致シタモノト存ズルノデ、ヤハリ一般的重要産業ニ對シマシテハ、免稅輕減ノ方法ヲ採ツタ原案ニ同意ヲ致シマシタ次第デアリマス、之ヲ以テ御答ト致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 石坂繁君

(石坂繁君登壇)

○石坂繁君 私ハ只今議題ト相成ツテ居リマスル稅制改正諸案ニ付キマシテ、聊カ質疑ヲ試ミントスル者デアリマス、元來中央地方ヲ通ズル稅制ノ根本的改革ノ問題ハ、國民多年ノ要望デアツタノデアリマシテ、

今回はガ提案ヲ見マシタコトニ付キマシテハ、大藏當局ノ勞ヲ多トスル者デアリマス、政府ノ御説明ニ依リマス、今回ノ稅制改正ノ目標ハ、第一ハ中央地方ヲ通ジテ、負擔ノ均衡ヲ圖ルト云フコト、第二ハ現下ノ經濟諸政策トノ調和ヲ圖ルコト、第三ハ國庫ノ收入ヲ増加シ、稅制ニ彈力性ヲ保タシメルト云フコト、第四ニ稅制ノ簡易化ヲ圖ルト云フコトヲ以テ目標ト致シテ居ラレルノデアリマス、私ハ此ノ四ツノ目標ノ中デ、

就中今回ノ改革案ハ增稅ニアリト斯様ニ觀察致シテ居ルモノデアリマス、即チ改正案ニ依リマス、先ヅ所得稅ノ稅目ノ變更、免稅點ノ引下、其ノ他課稅方法ニ付テ可ナリノ改正ヲ試ミテ居ラレル、或ハ又間接稅ノ種目ノ増加及ビ稅率ノ引下、而シテ又別ニ市町村民稅ガ新設セラレントスルコト云フヤウナコトカラ、所謂大衆課稅ヲ招來スルノ結果ト相成ツテ居ルノデアリマス、是ハ蓋シ今日ノ時局下ニ於キマシテハ、出來ルダケ多クノ國民ニ此ノ時局ニ要スル國費ノ負擔ヲサセル機會ヲ與ヘル、換言致シマスレバ此ノ興亞大業完遂途上ニ於キマシテ、日本國民ハ悉ク聖代ノ御世ニ於ケル國民トシテノ自覺ト感激トヲ以テ、其ノ持場々々ニ於テ其ノ分ニ應ジタル程度ト方法トニ於テ、大業興贊ノ御奉公ノ實ヲ擧ゲシメルト云フ趣旨ガ、此ノ稅法改正ノ精神の基調デナケレバナラヌト思フノデアリマス、即チ國民ヲシテ納稅セシムルコトニ依リマシテ、曠古ノ大業ヲ興贊シ奉ルコト云フ國民の自覺ヲ一層強メルト云フコト、即チ納稅ハ國民愛國ノ熱誠ノ發露デアルト云フ信念ヲ發揮セシムルト云フコトガ、此ノ稅制改革案ノ精神の基調ナケレバナラヌト信ジテ居ル者デアリマス、併シ此ノ精神の基調、此ノ國民の信念ノ發揮ハ、單ニ國民大衆ニ一般的ニ納稅ノ機會ヲ與ヘルト云フコトダケデハ未ダ十分デアリマセス、ソコニハ各種ノ

政治的條件ガ伴ハナケレバナラナイノデアツテ、政府ガ本稅制改革提案ニ際シマシテ、或ハ負擔ノ均衡ヲ圖ルコトヲ目標トシ、或ハ經濟諸政策トノ調和ヲ考慮セントセラレマス其ノ態度ハ、私ハ必要ナル條件ナリト思料致ス者デアリマス、併シナガラ假ニ斯様ナル條件ガ十分ニ具備致シマシタト致シマシテモ、私ハソレヲ以テ十分ナリト考ヘル者デハナイノデアリマス、私ハ政府ガ目標トセラルル所ノ總テノ條件ガ具備致シマシテモ、其ノ條件ヲ總テ含メタ、或ハ又其ノ條件ヲ超越シタ所ノモツト根本的ナルモノガナケレバナラヌト、斯様ニ信ジテ居ル者デアリマス、ソレハ即チ國政變理ノ任ニ當ル所ノ臺閣諸公、總理大臣初メ閣僚諸公ガ、眞ニ此ノ非常時局下ニアツテ、國家ノ大任ヲ雙肩ニ擔ツテ立ツト云フ信念ノ氣魄トヲ以テ國政ニ當リ、眞ニ國民ト共ニ大業完遂ニ邁進セントスル烈々タル氣慨ヲ以テ國民ヲ指導サレルコトデナケレバナラヌコトヲ確信シテ居リマス、是ガ即チ今日ノ政治ノ根本問題デアリ、ソレハ同時ニ國民課稅ノ根本問題デナケレバナラヌト信ジマス、私ハ斯ノ如キ信念ヲ以テ今回ノ稅制改正案ヲ檢討シ、斯様ナ考ヲ以テ政府ノ所信ヲ承リタイト存ズルノデアリマス

先ヅ第一ニ御同致シタイト考ヘマスルコトハ、本改正案ノ眼目トスル增稅額ノ算定ノ根據如何ト云フコトデアリマス、昭和十五年度ノ豫算ニ徵シテ見マスルニ、稅收入ハ經常部ニ於テ二十五億八千九百餘萬圓、臨時部ニ於テ二億五千六百餘萬圓、此ノ合計實ニ三十一億四千六百餘萬圓ト相成ツテ居リマスルガ、政府ノ説明ニ依リマシタ、今回ノ增稅ニ依リマシテ、國稅ニ於テ六億餘萬圓ノ收入ヲ舉ゲルコトニナツテ居リマスルガ、是ヨリ地方團體へ交付サ

ルベキ金額ヲ控除致シマシテ、差引國庫ノ收入ハ平年度五億餘萬圓、昭和十五年度三億七千餘萬圓ノ程度トナル見込アルト云フコトデアリマス、ソコデ私ハ此ノ平年度ニ於テ五億餘萬圓、昭和十五年度ニ於テ三億七千餘萬圓ノ此ノ増稅ハ、如何ナル根據ニ依ル所ノモノデアリカ、其ノ數字の根據ヲ承リタイノデアリマス、是ハ豫算全體ヲ通ジテモ同様ノコトデアラウト思ヒマス

ルガ、若シ他ノ方法ニ於キマシテ、或ハ行政機構ノ改革、或ハ經濟機構ノ改革ヲ斷行シ、或ハ又行政上ノ事務ニ要スル所ノ費用ヲ節約スルト云フヤウナ方法ニ依リマシテ、此ノ程度ノ、或ハ此ノ程度ニ近イダケノ費用ヲ捻出スル方法ハ他ニナカツタノデアリマセウカ、政府ノ豫算ノ執行ハ、時局重大ノ今日ニ於キマシテ著シク國費ハ膨脹致シテ居リマスルガ、其ノ豫算ノ執行ハ實ニ嚴格綿密、苟モ杜撰ナル使途ヲ許サナイノデアルト信ズルノデアリマス、政府ノ豫算編成ノ心構ヘニ付キマシテハ、曩ニ配付ヲ受ケマシタ所ノ豫算綱要ナリ、或ハ去ル一日ノ大藏大臣ノ演說ニ依ツテ承知致シマシタガ、雷ニ豫算編成ノ上ノ心構ヘバカリデナク、此ノ豫算執行ノ上ニハ一層嚴格綿密周到ナル考慮ガ運ラサレナケレバナラスト云フコトハ當然ナリト信ズルノデアリマス、而シテ豫算ノ實施ハ、物動計畫ノ實施ト脱ミ合セテ多分ニ實施上ノコトガ論議サレテ居リマスノデ、物動計畫ノ具體的説明ヲ聽カナケレバ豫算ノ審議ハ進メ難シトサヘ申サレテ居ルノデアリマス、是ト類似シタル意味ニ於テ私ハ本増稅案ノ審議ニ際シマシテハ、此ノ増稅額ノ計數的基礎ヲ承ラナケレバ、其ノ審議ヲ進ムルコトガ頗ル困難ナリト確信致シテ居リマス、而シテ又一面ニ於テハ斯様ナル増稅案ヲ提案致サレニ並行政シマシテ、是ト同時ニ政府ハ他ニ行政機構ノ改革、或ハ經濟機構ノ改革、乃至ハ是

等ノ事務上ノ刷新向上ト云フコトニ付テ、格段ノ考慮ヲ運ラサルベキデアルト確信致シテ居ルノデアリマスガ、米内總理大臣其ノ他閣僚諸公ハ、果シテ此ノ點ニ付テ如何ナル御考ヲ御持チニナツテ居ルノデアリマセウカ、如何ナル方策ヲ持ツテ御居デナリマセウカ、此ノ點ヲ併セテ御伺致シタイト思フノデアリマス

次ニ御伺致シタイト存ジマスノハ、此ノ改正案ガ果シテ政府ノ言ウテ居ラレル通りニ負擔均衡ノ目標ニ合致スルモノデアリヤ否ヤト云フコトデアリマス、抑、租稅ノ負擔ハ國民各階層ノ能力ニ照應シ、且ツ其ノ負擔ハ均衡ガ保タレナケレバナラスト云フコトハ、固ヨリ當然ノコトデアリマス、租稅ノ所謂應能負擔ノ原則ト云フモノハ、今日ニ於キマシテハ寧ろ富ハ債務ヲ生ズ、富ハ義務ヲ負フト云フ、サウ云フ理念ヲ以テ、大所得、大收益、大財産ニ對シマシテハ、其ノ然ラザル者ヨリモ比較的ニ多クノ課稅ヲスルコトヲ以テ、却テ負擔ノ均衡ナリトサヘ考ヘラレルニ立至ツテ居ルノデアリマス、今回ノ改正諸案ガ果シテ政府ノ言フ通りニ負擔ノ均衡ノ目標ニ合致シテ居ルモノデアラカドウカト云フコトニ付キマシテハ、先日來ノ本議場ニ於テモ度々論ぜラレタノデアリマスガ、私モ此ノ點ニ對シテ多クノ疑ヲ持タザルヲ得ナイノデアリマス、之ヲ所得稅ニ付テ觀察致シマスルニ、此ノ改正案ガ極メテ多クノ改正ヲ試ミント致シテ居リマスルコトハ、先程申上ゲタ通りデアリマスガ、其ノ個人所得ニ於キマシテ綜合課稅主義ヲ徹底セシメ得ナカツタト云フコトハ、負擔ノ均衡ヲ圖ル目標ニ背反スルモノデアツテ、私ハ之ヲ極メテ遺憾ニ存ジテ居ルノデアリマス、即チ此ノ所得稅改正法案ニ於キマシテハ、所得稅ヲ分類所得稅及ビ綜合所得稅ノ二種ニ分類致シテ居ルノデアリマスルガ、銀行預金、貸付信託及ビ公債債ノ

利子ニ付テハ、其ノ課稅ニ付テ源泉課稅ト綜合課稅トヲ納稅者ノ自由選擇ニ委セテ居ルノデアリマス、ソコデ其ノ結果納稅者ニ取リマシテハ、何レガ利益デアラカト云フコトヲ檢討致シテ見マスルト、色々ノ計算ノ結果ハ、先ヅ是等利子所得ト利子所得以外ノ基本所得トノ合計額ガ二萬圓以下ノ場合ニ於キマシテハ、綜合課稅ヲ選ブ方ガ常ニ有利デアリマス、利子所得以外ノ基本所得ガ二萬圓超アツテ、其ノ他ニ一萬圓未滿ノ利子所得ガアル場合ニ於キマシテハ、綜合、源泉ノ課稅ハ何レモ同額ト相成ル、併シナガラ利子所得以外ノ基本所得ガ三萬圓以上アル場合ハ、ソレ以外ノ利子所得ガアレバ、何時デモ源泉課稅ガ有利ト相成ル結果トナルノデアリマス、即チ之ニ依ツテ見マスレバ、三萬圓以上ノ所得者ハ悉ク源泉課稅ヲ希望スルニ至ルコトハ自ラ明カデアリマス、隨テ本改正案ハ資產家ニ取ツテ極メテ有利デアリガ、一面斯ル不合理ナル稅制ニ於テハ、資產家ハ危險性アル產業投資ヨリモ、公社債若クハ預金ノ、安全ニシテ且ツ有利ナルヲ選ブニ至リ、國民ノ企業心ヲシテ著シク萎縮セシムルノ虞アリト考ヘザルヲ得ナイノデアリマス、是ハ洵ニ綜合課稅不徹底ノ結果現ハレテ來ル所ノ、一ツノ産業上ノ惡影響ナリト言ハザルヲ得ナイノデアリマス、櫻内大藏大臣ハ七日ノ本會議ニ於キマシテ此ノ點ニ觸レラレテ、更ニ先程田萬君ノ御質疑ニ對スル御答辯ノ中ニモアツタカニ存ジマスルガ、急激ナル改革ヲ避ケルガ爲ト云フガ如キコトヲ仰セシナツテ居ルノデアリマス、併シナガラ私ヲ以テ言ハシムレバ、左様ナコトハ理由ニナリマセス、曩ニハ——是ハ勿論前内閣ノ時デハアリマスケレドモ、大衆ノ生活ニ大キナ影響ヲ持ツ所ノ煙草ノ値上ヲ斷行シテ、之ニ依ツテ六千萬圓ヲ得テ居ルノデアリマスルガ、更ニ今回ノ改正案ニ於キマシテモ、

特ニ下級階級ニ於ケル所ノ過重負擔ト相成ツテ居ルノデアリマセスカ、即チ新シイ分類所得稅ト致シマシテ、勤勞者ニモ稍、輕イ特別ノ負擔ヲ課スルト云フコトハ、私ガ冒頭ニ於テ申上ゲマシタ通りニ、納稅ニ依リテ國民的自覺ヲ喚起セシムルト云フコトニ於キマシテハ、私ハ其ノ點ヲ是認致スノデアリマスルケレドモ、併シ下級階級ノ人ニ對スル所ノ課稅ハ、ソレガ此ノ法案ニ現ハレテ居リマスル通りニ、累進稅デナクシテ、比例稅率ト相成ツテ居リマスルコトハ、洵ニ下級階級ニ對スル所ノ過重負擔ノ結果ト相成ルノデアリマス、本案ニ依リマスルト、累進稅トナツテ居ルモノハ唯五千圓程度以上ノモノノミデアリマスカラ、甲種ノ勤勞所得稅ノ免稅點ヲ六百圓程度ト致スト致シマシテモ、所得六百圓程度ノ下級勤勞者モ、所得五千圓ニ近イ上級俸給者モ同等ノ比例率ガ課カルコトニナリ、五千圓ニ近イ俸給者ニ綜合所得稅ガ課カラズシテ、分類所得稅ガ課カルコトニナツテ居ルノデアリマス、是ハ餘リニ不公平ナリト申サナケレバナリマセス、同ジク勤勞者ノ中デモ六百圓乃至千圓ノ收入ニ依ツテ低イ生活ヲ營ンデ居ル人々ト、千圓乃至二千圓ノ階級ニ二千圓乃至三千圓ノ階級、三千圓乃至四千圓ノ階級、四千圓乃至五千圓ノ階級ナドデハ、總テ生活ノ難易ニ相當ノ差異ガアリ、此ノ間ニ相當累進率ガ行ハレデ然ルベキデアツタニモ拘ラズ、本案ニ依リマスルト、總テ之ヲ均等ニ比例稅率トナシテ居リマスルコトハ、下級者ニ取リマシテ餘リニ重イ負擔デアルト言ハナケレバナリマセス、稅率其ノモノノ上カラ、或ル程度ノ累進率ヲ課サナケレバ、上級者ト下級者トノ間ニ負擔ノ均衡ヲ保タレルトハ申サレマセヌ

更ニ下級勤勞者ニ對シマシテハ、假ニ均等ノ課稅ヲ致シタト致シテモ、實際ハ一部ノ殷賑產業ニ於ケル勤勞者ハ、容易ニ

新稅ノ屋主ニ轉嫁スルコトガ出來ルガ、併シ他ノ普通ノ產業ニ從事致ス者ハ是ハ容易デナイノデアリマス、即チ股販產業ニアラザレバ、普通產業ニ從事シテ居ル所ノ下級労働者ハ、其ノ課稅サレタダケ收入ハ、減少ヲ來ス結果ナルノデアリマス、彼等ハ此ノ事變以來諸物價ノ昂騰ニ依リマシテ、大體二割位ノ生活ノ壓迫ヲサレテ居ル、格別ソレ等ノ人達ハ、事變ニ依ツテ多クノ收益ヲ得ル譯デハナク、既ニ物價ノ騰貴ニ依ル所ノ二割ノ稅ヲ負ツテ居ルヤウナ結果ニナツテ居ルノニ、其ノ上此ノ度ノ稅ニ於テ上級者竝ニ負ハナケレバナラヌト云フコトハ、實ニ負擔ノ不均衡ガ下級階層ニ生ジテ來ルト申サナケレバナラヌノデアリマス、斯ノ如ク一方ニ於テ下級階層ニ過重負擔ヲ強ヒナガラ、大資本家ニ對スル所ノ自由選擇ノ機會ヲ設ケマシテ、綜合課稅ノ徹底ヲ期スルコトガ出來ナカツタト云フコトハ、洵ニ私ハ了解ニ苦シム所デアリマス、蓋シ思フノニ、是ハ金融資本家ノ反對ノ爲ニ外ナラナカツタノデアリマス、私ハ此ノ點最モ了解シ得ザル所デアリマス、又負擔均衡ノ目標ニ此ノ改正案ガ反スト云フ點ヲ他ノ觀點カラ論ジテ見マスナラバ、之ヲ所得稅ノ改正案ニ見ルコトモ出來ルノデアリマス、今回ノ所得稅ノ改正案ニ於キマシテハ、相續財產ノ額ガ多クナルニ付キマシテ、漸次課稅率ハ多クナツテ居リマスルケレドモ、之ヲ現行ノ相續稅ノ率ニ比較致シテ見マス、相續財產ガ大キクナレバナル程、現行法トノ比率ハ小サクナツテ居ルノデアリマス、甚ダ煩ハシクナリマスカラ、幾ツカノ例ヲ取ツテ申上ゲテ見マスルナラバ、假ニ相續財產五千圓以下ノ金額ト致シテ、現行法ハ千分ノ六デアリマス、ソレガ改正案デハ千分ノ十二ナツテ居ル、五千圓ヲ超ユル金額ハ、現行法千分ノ七、改正案千分ノ十、而シテ其ノ比率ハ五千圓ヲ超エ

ザル金額ニ於キマシテハ、現行法トノ比率ハ、現行法一ニ對シテ一・六六ニナツテ居リマス、五千圓ヲ超ユル金額ニ於テハ、現行法一ニ對シテ一・四二ニナツテ居ル、更ニ五萬圓ノ相續財產ニ付テ見マスルト、現行ノ千分ノ三十五ハ千分ノ五ニナリ、此ノ比率ハ一・四二ニナリ、十萬圓ノ相續財產ニ付テ觀察致シマスルト、現行法ノ千分ノ六十五ハ千分ノ九ニナリ、其ノ比率ハズツト少クナツテ一・二八トナツテ居リマス、二十萬圓ノ相續財產ニ付テ見マスルナラバ、現行ノ千分ノ百ハ千分ノ百三十トハナツテ居リマスルケレドモ、之ヲ比率ニ取ツテ見マスルト、現行ノ一ニ對シテ改正案ハ一・三〇デアルト、又五十萬圓ノ相續財產ニ付テ見マスレバ、現行ノ千分ノ百六十ハ千分ノ百九十トナリ、其ノ比率ハ一・二五トナツテ居リマス、更ニ百萬圓ノ財產ニ付テ見マスルナラバ、現行ノ千分ノ二百ハ改正案デハ千分ノ二百四十、而シテ比率ハ現行ノ一ニ對シテ一・二〇トナツテ居ル、五千圓ヲ超エザル相續財產ニ付テノ比率ハ一・六六デアアルニモ拘ラズ、百萬圓ヲ超過スル相續財產ニ付テノ比率ハ一・二〇トナツテ居ル、此ノ比率自體ニ依リマシテモ、今回ノ相續稅ノ改正案ハ、決シテ大キナ財產ト小サイ財產トニ負擔ノ均衡ヲ保チツツ改正サレタモノデアルトハ申サレナイト私ハ信ジテ居リマス、私ハ以上ノ如ク今回ノ改正案ヲ或ハ所得稅ノ方面カラ、或ハ相續稅改正ノ方面カラ見マシテ、斯ノ如キ負擔ノ均衡ヲ保持ザルノ實情ニアリト云フコトヲ申上ゲタノデアリマスルガ、私ガ斯ノ如クニ申上ゲマシテモ、尙且ツ大藏大臣ハ今回ノ改正案ハ負擔均衡ノ目標ニ合致セルモノナリト仰セラレレノデアリマセウカ、如何デアリマセウカ

次ニ御伺致シタイト存ジマスノハ、徵稅事務ニ關スル問題デアリマス、即チ稅務上ノ問題デ、其ノ一ツト致シマシテハ不當不法ノ課稅ニ對スル救済方法ニ付テデアリマス、此ノ問題ニ付キマシテハ、先日ノ本會議ニ於キマシテ同僚清瀨一郎氏ヨリ論ゼラレマシタ、今日ノ所得稅法ガ認メテ居ル所ノ不當不法ノ課稅ニ對スル救済ノ方法ガ、單ニ其ノ規定ハアルケレドモ、實際當事者ニ取ツテ格別救済ノ方法ニナラザルコトヲ清瀨氏ハ論ゼラレタノデアリマス、私モ全ク同様ノ見解ヲ持ツテ居ル、然ルニ之ニ對シマシテ大藏大臣ヨリハ、其ノ不當不法ノ課稅ニ對スル救済方法トシテハ、全國七大都市ニ稅務相談所ヲ置クガ、ソレ以外ノコトハ考ヘテ居ラナイト云フ御趣旨ノ御答辯ガアツタノデアリマス、其ノ後新聞紙ノ傳ヘル所ニ依ツテ見マシテモ、此ノ救済方法ニ付キマシテハ、全國ノ六大都市及ビ福岡、即チ此ノ七大都市ニ稅務相談所ヲ設ケルト云フ程度ノ御考慮ノヤウデアリマス、ソコデ私ハ更ニ御伺致シタイノデアリマスルガ、此ノ稅務相談所ヲ設ケルト云フコトハ、今回劃期ノ改正トモ云フベキ稅制諸案ノ實施ニ際シマシテ、未ダ是等ノ法案ニ付不案内ナルニ依ツテ、稅務相談所ニ於テ納稅者ニ對スル所ノ解説、說明ヲシ、ソレニ依ツテ或ル程度ノ諒解ヲ求メルコトハ出來ルデアリマセウケレドモ、ソレハ不當不法ノ課稅ニ對スル所ノ救済トハ相成ラスノデアリマス、而モ七大都市ニ稅務相談所ヲ設ケマシテモ、其處ニ相談ニ來ル者ハ極ク僅カデアル、其ノ相談所所在ノ市ニ居住シテ居ル極ク僅カノ人ダケデアツテ、恐ラク山間僻地ノ人達ハ相談ニ行ク機會ハ永久ニナカラウト心配セザルヲ得ナイ、而モソレハ説明デアリ解説デアツテ、苟モ一旦不當不法ノ課稅ヲセラレタ以上ハ、此ノ稅務相談所ニ依ツテ救済ヲ受ケルコトハ、蓋シ木ニ緣ツテ魚ヲ求メルニ等シイノデアリマス、ソレナラバソレダケ救済ムカト云フト、恐ラク

私ハ此ノ稅務相談所ニ御使ヒニナル所ノ者ハ、稅務官吏ノ古手デアリマセウガ、其ノ稅務官吏ノ古手ト現職ノ稅務官吏トノ間ニ、色々ナ折衝ガ起ルコトハ想像スルニ難クナイノデアリマス、斯様ナコトヲ想像スルコトハ、私ノ洵ニ好マシカラザル所デアリマス、ケドレモ、此ノ稅務相談所ト云フモノハ、蓋シ弊害多クシテ實際ノ利益ハ少シト斷定セザルヲ得ナイノデアリマス、故ニ私ハ此ノ稅務相談所ヲ全然設置スベカラザルモノト論ズル者デハナイノデアリマス、ケレドモ、是ハ是トシテ、眞ニ不當不法ノ課稅ニ對スル救済ノ方法ニ付テハ、現ニ困ツテ居ル多クノ階層ガアルコトヲ認メラレナラバ、是ハ別途ニ考慮サレルコトヲ適當ト考ヘルノデ、私ハ別ニ簡易稅務裁判所ノ設置ヲ要望致スノデアリマス、而シテ其ノ組織等ニ對スル具體案モ持ツテ居ルコトデアリマス、是ハ他ノ適當ナル機會ニ讓ルコトニ致シマシテ、此ノ改正ニ依ツテ著シク増加サレタデアラウト思ハレル納稅者ノ數ヲ考ヘルニ付キマシテモ、私ハ別ニ此ノ救済方法ヲ講ズルコトヲ以テ最モ適切ナリト考ヘル者デアリマス、故ニ重ねテ櫻内大藏大臣ノ御考慮ヲ煩ハサントスル者デアリマス

稅務ノ事務上ニ關スル第二ノ問題ハ、稅務官吏ノ處遇ニ關シテデアリマス、今日時局ノ趨勢ハ、各方面ノ統制ヲ強化セザルヲ得ナイ狀態ニ相成ツテ居ルノデアリマス、此ノ統制ノ波ニ便乘致シマシテト申シテハ少シ言葉ガ過ギルカモ知レマセウガ、稅務官吏ノ認定獨裁ノ權能ハ次第ニ強化サレツツアルノデアリマス、然ルニ稅務官吏自體ハドウデアアルカト申シマス、昔ノ收稅吏型、苛斂誅求主義、ト言ウテハ是モ少シク言葉ガ失禮ニナルカモ知レマセウガ、正シイ納稅者ノ説明ニ耳ヲ藉サズ、道理アル納稅義務者ノ聲明ニモ耳ヲ藉サズ、稅務官吏ガ獨斷的ニ認定スル傾向ガ著シイノデアリ

マス、ソコデ斯ノ如キ態度ガ新稅ノ施行ニ
際シテ又現ハレト云フコトニナルト、自
ラ官民ノ相剋摩擦ハ激化サレテ參リマス、
而シテ其ノ爲ニ國民ノ納稅思想ハ自ラ惡
化サレテ參ルノデアリマス、稅務官吏ニ
求ムルモノハ最モ圓滿ナル常識デナケレ
バナラス、同時ニ納稅者ニ對スル親切デ
ナケレバナラスノデアリマス、故ニ稅務
官吏ノ待遇ニ付キマシテハ、先以テ稅務
官吏ノ待遇ヲ改善スベシ、承ル所ニ依リ
マス、今日ノ稅務官吏ノ平均給ハ九十
圓、此ノ程度デハイケマセヌ、其ノ待遇ヲ
改善スルト同時ニ、稅務官吏ノ教育機關ヲ
設置スル必要ガアルト考ヘル、鐵道ニハ鐵
道職員敎習所ガアリ、逓信省ニハ逓信官吏
ノ上級下級ノ教育所ガアリマス、然ルニ最
モ民衆ニ直接スル、最モ重大ナル職責ヲ持
ツテ居ル所ノ稅務官吏ニハ、其ノ機關ガナ
イノデアリマス(拍手)故ニ私ハ一面ニ於テ
稅務官吏ノ優遇方法ヲ講ジテ戴クト同時ニ、
更ニ稅務官吏ニ對スル教育ノ機關ヲ設置シ
テ戴キタイト希望スルモノデアリマス、之
ニ對スル大藏大臣ノ御所見如何ト御同致シ
タイノデアリマス

稅務上ノ第三ノ問題ハ、所謂標準率ノ決
定ニ付デアリマス、今マデ課稅ニ當リマ
シテ、商工業者ノ所得ノ標準率、或ハ農業
者——是ハ自作モ小作モ含メテデアリマス
ガ、農業者ノ所得ノ反當標準率ノ決定ハ、
大藏大臣御承知ノ通り稅務官吏ノ手加減ニ
依ルノデアリマシテ、法律ニ依ルニアラズ、
勅令ノ標準ニ依ルニアラズ、全ク稅務官吏
ノ獨斷ノ決定ニ依ツテ居ルノデアリマス、
ソコデ私ハ此ノ長イ間ノ傳統ヲ改メラレテ、
或ハ之ニ所得調査委員ヲ加ヘルナリ、或ハ

營業者ノ意見ヲ聽クコトニ依ツテ之ヲ決定
シテ、願クハ各地ノ稅務監督局ニ於テ之ヲ
公ニ示シテ戴キタイ、斯様ナ希望ヲ持ツテ
居ルノデアリマス、如何ナル人ノ所得ニ致
シマシテモ是ハ實際ノ額ニ依ツテ決定サル
ベキハ當然デアアルノデアリマス、然ルニ其
ノ實際ノ額ト云フモノハ各人各様デアツテ、
唯稅務官吏ガ机上ニ於テ決定シタル額ヲ以
テ律スベカラザルコトハ、理ノ當然デアアル
ト言ハナケレバナリマセヌ、然ルニ日本ノ
稅法布カレテ以來今日ニ至ルマデ、稅務署
ハ——敢テ私ハ陋習ト申シマスルガ、此ノ
陋習ヲ一慣シテ持ツテ居ルノデアリマス、
是ハ洵ニ徵稅上ノ根本問題デアツテ今日稅
法ノ根本的改革ニ當リマシテ、先以テ斯ノ
如キ陋習ヲ改善サルベキデアアルト私ハ考ヘ
テ居ル者デアリマス、故ニ標準率ノ決定ニ
際シマシテハ、下世話ニ申シマス通りニ、
餅ハ餅屋、酒ハ酒屋ト云フ工合ニ、實際當
業者ノ意見ヲ聽キ、營業者ノ意見ヲ聽クコ
トニ依ツテ標準率ヲ決定シ、官民協調ノ精
神ニ依ツテ出タ所ノ標準率ヲ課稅ノ標準ニ
シテ戴キタイト、私ハ希望セザルヲ得ナイ
ノデアリマス(拍手)若シ納稅者ニシテ此ノ
標準率ニ對シ納得ガ參リマスナラバ、現在
ノ官民ノ紛議ノ大部分ハ、恐ラクハ雲散霧
消スルコトデアラウト考ヘマス、併シナガ
ラ若シ此ノ標準率ガ從來ノ通りニシテ決定
セラレマスナラバ、如何ニ議會ニ於キマシ
テ慎重ニ稅制各法案ヲ審議致シマシテモ、
實際國民ニ課稅サレルニ當リマシテハ、國
民ハ全然自己ノ關知セザル官廳ノ一方ノ決
定標準ニ依ツテ課稅サレル結果ト相成ルノ
デアリマシテ、是ハ重ネテ申シマスルガ、
實ニ看過スベカラザル所ノ徵稅上ノ根本問

題デアアルト言ハナケレバナリマセヌ、櫻内
大藏大臣ノ如キハ、在野多年、練達ノ聞エ
高キ人デアリマシテ、私ハ斯ノ如キ人ヲ當
路ニ見出シマシタガ故ニ、此ノ際此ノ稅法始
ツテ以來ノ陋習ヲ斷乎トシテ改メラレテ、
私ガ前段申上ゲマスヤウナ方法ヲ講ジテ戴
キタイト要望致スノデアリマス、此ノ點ニ
對スル大藏大臣ノ御所見ヲ承リタイノデア
リマス
次ニ御同致シタイト考ヘマスコトハ、各
稅法ノ實施ト產業トノ調和ニ付デアアリ
マス、租稅法ハ申上ゲルマデモナク常ニ其
ノ各方面ニ對スル影響ヲ考慮シ、社會政策
的見地ニ立チ、又產業政策上適切ナル考慮
ヲ廻ラシテ、是ガ實施ヲ爲スベキハ當然デ
アリマスガ、併シ徵稅ノ要諦ハ、納稅者ノ
負擔ノ均衡ヲ失フコトナクシテ、國家歲入
ノ充實ヲ圖ルト云フコトニアルノデアリマ
ス、隨ヒマシテ租稅法其ノモノノ任務ハ、
其ノ稅法ヲ以テ決定シタル所ノ具體的ノ租
稅ヲ徵收スルコトヲ以テ本來ノ任務ト致サ
ナケレバナリマセヌ、而シテ又之ヲ以テ私
ハ先ヅ十分ナリト考ヘルノデアリマス、故
ニ租稅其ノモノヲ以テ產業政策ノ具體化ヲ
同時ニ致サントスル如キコトハ、換言致シ
マスレバ、稅法自體ガ其ノ中ニ產業政策
ヲ調和セシメントスル規定ヲ具備スルト云
フコトハ、ソレ自體既ニ難事デアルト申サ
ナケレバナリマセヌ、況ヤ產業政策トノ調
和ニ重キヲ置クノ結果ハ、却テ租稅本來ノ
使命ヲ歪曲セラレル如キ虞少シト致シマセ
ヌ、今回施行セラレマシタ所ノ臨時租稅
措置法ノ留保所得ノ運用方法ニ依ル所ノ負
擔輕減ノ問題、又ハ補助金ニ對スル所ノ措
置ノ如キハ、既ニ行過ギノ感ガアルト私ハ

觀察致シテ居リマス、之ヲ實際ノ運用上カ
ラ觀察致シマシテモ、實ニ煩瑣ナル手續ヲ
執ラナケレバナラス結果ニ相成ツテ居ルノ
デアリマス、故ニ私ハ斯ノ如ク產業政策ト
ノ調和ニ對シマシテハ、租稅法以外ニ之ヲ
立法シ、之ヲ稅務ト切離シテ、各、他ノ所
管官廳ヲシテ其ノ運用ニ當ラシメテ、以テ
租稅法ノ獨立不羈ノ特質ヲ冒瀆セザラシメ
ルキウニスルト同時ニ、稅法ノ實際ノ產業
上ニ及ボス影響ニ付キマシテハ、他ニ適當
ナル措置ヲ講ズルコトヲ必要ナリト考ヘル
者デアリマス(拍手)是ガ同時ニ稅制ノ簡易
化ノ目標ニモ合致シ、又稅務官吏ノ心理上
カラ致シマシテモ、納稅者タル產業人ノ心
理上カラ致シマシテモ、適當ナリト信ズル
者デアリマス、私ハ御斷リ申シテ置キマス
ガ、課稅ニ對シテ產業政策ヲ無視シテ立法
シロト言フ者デハ斷ジテアリマセヌ、唯稅
法自體ニソレ等ノモノヲ兼備ハラセルコ
トノ難事ヲ茲ニ論ジテ居ルノデアリマス
(拍手)
最後ニ私ハ、政府ノ「インフレーション」
抑止ノ政策ニ付キマシテ御同致シタイノデ
アリマス、曩ニ米內總理大臣ハ一日ノ本會
議ニ於テ、其ノ施政方針ノ中ニ、國防力
ノ強化ヲ以テ現下喫緊ノ要諦デアルト爲
シ、ソレガ爲ニハ軍備ノ充實、國民精神ノ
昂揚、經濟力ノ發展及ビ戰時國民生活ノ確
保ガ缺クベカラザルモノナリト述べラレ、
更ニ又同日櫻内大藏大臣ハ、新東亞建設ノ
大業完遂ノ爲ニハ、舉國一致我ガ財政經濟
ノ運行ニ萬全ヲ期スルノ必要アリト爲シ、
現時我國内外ノ情勢下ニ在リテハ、我ガ財
政經濟政策ハ國防ノ充實ト基本國力ノ培養
トニ主力ヲ傾注シ、戰時國民生活ヲ確保ス

ルト共ニ、銑後ノ任務遂行ニ支障ナキヲ期セネバナラスト述ベラレテ居ルノデアリマス、固ヨリ私ハ其ノ根本方針ニ關シマシテハ十分ニ之ヲ諒トシ、之ニ賛意ヲ表スル者デアリマス、而シテ本稅法改正諸案提案ニ際シマシテモ、大藏大臣ハ此ノ稅制改正ガ現下ノ緊要ナル經濟諸政策トノ調和ヲ一大目標トシテ居ラレルコトハ、一昨日ノ本會議ニ於キマシテモ明ニセラレタノデアリマス、是亦當然ノコトニ存ズルノデアリマス、然ルニ本稅制改正ノ他ノ大キナル——私ヲシテ言ハシムレバ、恐ラクハ最大ノ目標トモ申スベキハ國庫ノ增收、即チ増稅ニアルコトハ先ニ指摘致シマシタ通りデアリマス、即チ本案ハ一ツノ増稅案デアアル、政府ハ本案ノ改正ニ依リマシテ、一ハ以テ國庫ノ增收ヲ圖リ、一ハ以テ國民生活ヲ緊縮シテ、消費節約、購買力ノ吸收ヲ圖リ、以テ漸ク高物價其ノ他ニ既ニ徴候ヲ現ハシテ居ル所ノ「インフレーション」ヲ抑止セントスルニアルト云フコトハ、窺ヒ知ルニ十分デアアルデアリマス、然ラバ果シテ本案改正ハ、政府ノ是等ノ經濟政策ニ適合スルカドウカ、私ハ又甚シク疑問ヲ持タザルヲ得ナイノデアリマス、勿論本増稅案ハ或ル程度ノ「インフレ」抑止ノ作用ヲ持ツコトハ肯定出來ルノデアリマスガ、同時ニ此ノ増稅案ハ物價昂騰ノ結果ヲ招來スルコトヲ看過シテハナリマセヌ、即チ本増稅案自體ニ依ツテ見マシテモ、間接稅中酒稅ニ於テハ三割程度ノ増徴、砂糖消費稅ニ於キマシテハ二割程度ノ増徴、其ノ他清涼飲料稅、織物消費稅、通行稅、入場稅、物品稅等ノ増徴或ハ新設ヲ見テ居ルノデアツテ、是等間接稅ノ増徴或ハ新設ガ價格昂騰ヲ起スコトハ言フマデ

モナイノデアリマス、更ニ直接稅ニ致シマシテモ、之ヲ法人關係ニ付テ論ジマスレバ、所得稅ノ改正、法人稅ノ新設、臨時利得稅ノ改正等ニ依リマシテ、會社ノ負擔ハ是亦可ナリニ増大セシメラレテ居ルノデアリマス、企業經營ニ於ケル公課負擔ノ増大ハ、勢ヒ生産品價格ノ「コスト」昂騰ニ拍車セザルヲ得ナイノデアリマス、斯ノ如クニ致シマシテ本改正案實施ノ結果ハ、物價ガ昂騰スルノ結果トナルコトヲ憂ヘザルヲ得ナイノデアリマス、櫻內大藏大臣ハ間接稅ニ於キマシテハ、成ベク奢侈的消費又ハ不急消費ニ重課スルノ方針ヲ執ルコトヲ致シタ、斯様ニ說明ヲセラレテ居ルノデアリマスガ、藏相ノ言フガ如ク、現下緊要ナル經濟諸政策トノ調和ヲ圖ルト云フ點カラ論ジマスナラバ、奢侈的消費又ハ不急消費ニ關シマシテハ、今少シク重課スベキデアツテ、此ノ點頗ル不徹底ナリト論ゼザルヲ得ナイノデアリマス、政府ガ所期スル時局ニ於ケル經濟力ノ發展、國民生活ノ確保ノ爲ニハ、本稅制改正ト同時ニ、他ノ緊急適切ナル經濟政策ヲ講ズベキデアアル、而シテ以テ「インフレ」ヲ抑制ヲナサルベキハ、最モ緊要ナルコトデアアルト確信致スノデアリマス、ソレハ從來ノ如ク、單ニ消費節約ノ勸諭、或ハ百億貯蓄ノ獎勵ト云フヤウナコトデアハ追ツ付キマセヌ、今少シク徹底シテ購買力ノ回收ヲ圖ラナケレバナリマセヌ、殊ニ今日ノ世態ヲ眺メテ見マスルト、殷賑産業ニ依ツタ所ノ利益ガ、直接生活消費ニ湯水ノ如クニ浪費セラレテ居ル所ノ場面ハ、實ニ言フニ忍ビザルモノガアルノデアリマス(拍手)或ハ邸宅、別荘ノ建設ガ禁止セラレタカラト申シマシテモ、避暑地ノ家ヲ借りタリ、庭造リニ贅澤ヲ盡

シタリ致シテ居ル、花柳界空前ノ賑ヒ、或ハ芝居、相撲ノ物價イザハ、溫泉地ノ客ノ殺到振リ、百貨店ノ商品券ノ飛ブヤウナ賣行、此ノ殷賑事業カラ流レル所ノ惡性ノ購買力コソハ、實ニ色々方面ニ於テ害惡ヲ流スコト甚シイモノガアルノデアリマシテ、之ニ對スル適切緊急ナル方法ヲ講ズルニアラザレバ、私ハ其ノ結果洵ニ憂慮ニ堪ヘザルモノアリト信ズルノデアリマス(拍手)政府ハ之ニ對シマシテ如何ナル方策ヲ樹立シ、且ツ實行セントセラレルノデアリマセウカ、私ハ此ノ點ニ關シマシテ、特ニ總理大臣、大藏大臣、商工大臣ノ御答辯ヲ煩ハシタイノデアリマス

私ハ以上各項ニ付テ質疑ヲ申上ゲタノデアリマスルガ、第一ノ行政機構其ノ他ノ改革ト云フ問題ニ付キマシテハ、特ニ總理ノ御答辯ヲ煩ハシ、其ノ他ノ問題ニ付キマシテハ、最後ノ問題ヲ除イテハ、主トシテ大藏大臣ノ率直ナル御答辯ヲ要望致スノデアリマス(拍手)

(國務大臣櫻內幸雄君登壇)

○國務大臣(櫻內幸雄君) 石坂君ニ御答辯申上ゲマス、増稅額ノ算定ノ基礎ニ付テ第一點ニ御質問ガアツタヤウデアリマス、是ハ申スマデモナク、從來ノ租稅ノ狀況ト今回ノ稅法トヲ見合ツテ決定致シタノデアリマスガ、何分ニモ現在ノ情勢ハ所謂東亞ノ新秩序建設ノ爲ニ、長期ニ互ツテ相當ノ國費ノ要ルト云フコトダケハ御承知ニナツテ居ル所デアリマセウガ、ソレヲ支辨致シマスノニ、公債ダケヲ以テ支辨シテ行クコトハ、是ハ到底財界ノ許ス所デナイノデアリマシテ、是ト相俟ツテ國民一般ノ負擔ニ依ルコトガ必要デアリマスノデ、ソコデ此ノ

増稅ト云フコトガ、今回ノ稅制改正ノ中ノ一ツノ要素ニナツタノデアリマス、數字ノ根據ト云フ御話デアリマスガ、國費ハ本年御承知ノ通り一般、臨時ノ經費ニ於テ五十八億圓ヲ超過シ、又軍事費ガ四十四億圓ト云フ巨額ニ達シテ居リマシテ、將來ノ見透シヲ考ヘテ見マシテモ、中々此ノ一般ノ國費ガ容易ニ減少シナイ狀態デアリマスノデ、此ノ點ニ付キマシテ、今回ノ増稅ハ已ムヲ得ナイモノト考ヘタノデアリマス、斯ノ如キ増稅、即チ平年度ニ於テ約八億一千万圓、初年度ニ於テ約五億萬圓、斯様ナ大キナ増稅ヲ爲ス場合ニ於テ、行政整理並ニ一般ノ經費ノ節約ニ依ツテ、之ヲ捻出スルダケノ考ヲ持タナカツタノデアアルコト云フ御話デアリマスガ、本豫算ハ出來得ルダケ節約ヲシテ組立テラレタ豫算デアリマシテ、到底斯様ナ澤山ヲ費用ヲ現在ノ豫算カラ捻出スルコトハ難カシイノデアリマス、併シナガラ私ハ此ノ豫算ノ實行ニ當リマシテハ、一厘一毛ト雖モ之ヲ輕率ニ使ハナイヤウニ考ヘマシテ、現在ノ此ノ豫算ヲ少シデモ少ク致スヤウニ致シタイト云フコトニ付キマシテハ、渾身ノ努力ヲ拂フ考デアリマス

次ニ此ノ増稅案ガ、負擔ノ均衡ガ保タレテ居ナイデハナイカト云フノデ、先刻御答辯申上ゲマシタケレドモ、第二種所得稅ヲ綜合課稅シナカツタ點ニ對シテ御非難ガアリマシタガ、ソレハ先刻既ニ私ガ答辯致シタノデアリマスカラ、之ヲ重ネテ申上ゲマセヌガ、唯第二點ノ所謂五千圓以下ノ課稅ニ付キマシテ、極ク少額ノ所得者ト五千圓以內ノ、即チ四千圓トカ、四千五百圓トカ云フヤウナ人々ノ負擔ガ同一ニ取扱ハレ

テ居ルコトハ、不都合デアライカト云フ御意見デアリマスガ、洵ニ見様ニ依ツテハサウ云フ感ジガ致スノデアリマス、併シナガラ是ハ事實ノ上ニ於テ見マスト、相當ヤハリ懸隔ガ置カレテ居ルノデアリマシテ、今一例ヲ申シマスト勤勞所得ニアツテハ八百圓ノ所得者ノ方ハ、百圓ノ收入ニ對シテ一圓五十錢ノ稅ニナツテ居リマス、千五百圓ノ人ハ百圓ニ對シテ三圓六十錢ノ稅ニナツテ居リマス、三千圓ノ所得ノ方ハ百圓ニ付テ四圓八十錢ノ稅ニナツテ居リマス、斯ウ云フ風ニヤハリ累進的ニ上ツテ參ツテ居ルノデアリマシテ、此ノ上リ方ガ少イトカ多イトカ云フ點ニ付キマシテハ、色々議論ガアリマセウケレドモ、今日ノ日本ノ狀態カラ考ヘテ見マシテ、先ヅ此ノ程度デ宜カラウト云フノデ、斯様ニ決定致シタヤウナ譯デアリマス、ソレカラ相續稅ノ問題デゴザイマシテ、相續稅ガ上ニナル程今度ハ増加シタ率ガ少イデハナイカト云フ御話デアリマスガ、成程御示ニナツテ居ルヤウナ數字デアリマスケレドモ、上ノ方モ増稅シタコトハ可ナリ多クノ増稅ヲ致シテ居リマス、唯其ノ比率ガ比較的今回、上ノ方ニ割合ニ多ク行ツテナイト云フコトハ、相續稅ノ從來ノ負擔ヲモ見マシテ、餘リ苛酷ナコトヲ致シマシテモ、是ハ實際ノ負擔ノ上カラ見テ甚ダ當ヲ得ナイト考ヘマシタノデ、斯様ニ致シタノデアリマス

稅務上ニ付キマシテ不法、不當ノ課稅ヲ受ケタ場合ニ於テ、之ヲ救済スル途ガナイ、先日モ此ノ問題ガ起ツタノデアリマスガ、斯様ナル場合ニ於テハ、訴願ノ途モアリマス、或ハ審査要求ノ途モアリマスガ、ソレハ從來非常ナ手數ガ掛ツテ居ルノデアツテ、甚ダ不都合デアルト清瀨君モ申サレタノデアリマスガ、此ノ點ニ付キマシテハ吾々モ深く考ヘナケレバナラヌト思ツテ居リマシテ、今回即チ稅務相談所ヲ設ケタノモ、此ノ點ニ付キマシテ多少心ヲ配ツタ譯デアリマスガ、御話ノ如ク稅務相談所モ全國ニ何箇所モ設ケルノデアリマセヌカラ、地方ノ人ハ之ヲ利用スルノ途ガナイト云フ御意見デアリマシテ、其ノ點ハ私共モ全く御同感ノ意ニ堪ヘナイノデアリマス、之ヲ救済スルノ途ト致シマシテハ、ドウシテモ稅務執行スル所ノ官吏ノ教育ヲ致スト云フコトガ必要デアリマシテ、此ノ點ニ付キマシテハ十分ニ注意ヲ致シマシテ、稅務執行ノ上ニ於テ遺憾ナキヤウニ致シタイト思ツテ居リマス、今日ニ於キマシテモ稅務官吏ノ養成ニ付キマシテ、常設ノ機關ハ設ケテ居リマセヌノデアリマスケレドモ、毎大藏省內ニ於テ講習會ヲ開催致シマシテ、其ノ點ニ付キマシテハ相當指導致シテ參ツテ居ルノデアリマスケレドモ、今後モ更ニ一層其ノ點ニ付テ注意致シタイト考ヘルノデアリマス、標準率ノ決定ニ付テ公開ヲシタラドウデアリカト云フ御意見デアリマスガ、是ハ私ハ御意見トシテ十分拜聽致シマシタケレドモ、今日之ヲ公開スルト云フ風ナ考ハ持ツテ居ラスノデアリマス、産業トノ調和ニ付キマシテ、租稅政策ニ依ツテ産業ノ進展ヲ圖ルト云フ事柄ハ不都合デアアル、寧ろ租稅ハ租稅トシテ取ツテ、若シ振興ノ爲ニ特殊ノ獎勵ノ必要ナモノハ、各關係省ソレゾレノ手ニ依ツテヤウトラ宜イデハナイカト云フ御意見デアリマスガ、此ノ點ニ付キマシテハ御意見トシテ私ハ傾聴スベキモノガアルト思ヒマスケレドモ、從來所謂特殊ノ

事業ニ付キマシテ免稅ヲ行フトカ、或ハ減稅ヲ行フト云フガ如キ事柄ガ行ハレテ居リマシテ、起業ノ際ニ於テ此ノ稅ガ多ク問題ニナリマスノデ、今回モ亦此ノ從來ノヤリ來リヲ踏襲シタ譯デアリマス「インフレ」シヨ」ノ問題ニ付キマシテ御話ガゴザイマシタガ、是ハ御意見ノ如ク此ノ「インフレ」阻止ニ付キマシテハ、吾々トシマシテハ撒布セラレタル資金ヲドウシテモ回收スル、又購買力ニ付キマシテモ十分注意ヲシテ、之ヲ緊縮スルト云フコトハ最モ必要デアリマシテ、御承知ノ如ク或ハ消費節約デアルトカ、或ハ貯蓄獎勵デアルトカ、或ハ又企業ノ上ニ於テハ資金調整法トカ、有ユル手段方法ヲ執ツテ居ルヤウナ譯デアリマス

ソレカラ物品稅ノ問題ニ付テ御話ガゴザイマシタガ、是亦先ニ御答辯申上ゲマシタ通り、今回ノ物品稅ノ増徴ハ主トシテ奢侈品ニ重キヲ置キマシテ、奢侈品若クハ生活上不急ノ物ノ方ニ向ツテ多クノ増稅ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、是ガ直チニ物價騰貴ヲ起シテ、其ノ物價騰貴ノ結果國民生活ニ危殆ヲ及ボスト云フ風ニハ考ヘテ居ナイ次第デアリマス(拍手)

〔國務大臣藤原銀次郎君登壇〕

○國務大臣(藤原銀次郎君) 石坂君ニ御答ヲ申上ゲマス、只今私ニ對シテ御尋ノ點ハ、大藏大臣ヨリ詳細御答ニナリマシタ通り、商工省ニ於テモ同様ニ考ヘテ居リマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス(拍手)

〔國務大臣米内光政君登壇〕

○國務大臣(米内光政君) 今回ノ稅制改革ニ依リマスルト、相當多額ノ國民ノ負擔ヲ增加致スコトニナリマス、之ニ付キマシテモ、只今ノ御質問ノ第一ノ行政機構等ノ改革ヲ必要トセザルヤト云フコトデアリマスガ、刷新ノ必要ヲ認メマスモノハ、ドン／＼刷新シテ行クト云フコトニ躊躇致スモノデハナイノデゴザイマス、第二ニ國民精神ヲ緊張セシメマシテ生活ヲ緊縮スルコトハ、是亦最モ肝要ナコトト存ズルノデアリマス、是ガ爲ニハ政府ト致シマシテハ、教育勸誡、戊申詔書、國民精神作興ニ關スル詔書ニ於テ御示ニ相成リマシタル所ノ御訓示ノ精神ヲ徹底セシムル爲最大ノ努力ヲ拂ヒマス、ソレト同時ニ國民精神總動員聯盟ニ於キマシテモ、大イニ力ヲ致シ、今日マデ足ラザル所ハ之ヲ改正致シマシテ、其ノ實效ヲ舉ゲルコトニ大イニ力ヲ用ヒタイト考ヘテ居リマス

○石坂繁君 簡單デアリマスカラ自席カラ發言スルコトヲ御許ヲ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 許可致シマス

○石坂繁君 只今ノ御答辯ニ對シマシテハ、更ニ御尋ヲ致サナケレバナラヌ點ガ少クナイノデアリマスガ、ソレハ他ノ機會ニ讓ルコトニ致シマシテ、今日ハ是デ一應私ノ質疑ハ打切りマス

○議長(小山松壽君) 藤本拾助君

〔藤本拾助君登壇〕

○藤本拾助君 平年度ニ於キマシテ約八億一千四百萬圓、初年度ニ於キマシテ約六億四百萬圓ノ增收ヲ以テ、其ノ内容ト致シマスル今次ノ中央地方ヲ通ズル稅制ノ一般的改革ガ、今ヤ國ヲ舉ゲテ努力致シテ居リマスル聖戰目的貫徹ノ一助トナリ、或ハ又過去四星霜ニ互リ東亞新秩序建設ノ爲ニ尊キ礎石トナリマシタル護國ノ忠魂ニ對シ、或ハ又硝煙彈雨今尚ホ死生ノ巷ニ奮戰力闘シテ

居リマスル皇軍將士ノ御勞苦ニ對シマシテ、聊カナリトモ報ユルコトガ出來ルナラバ、洵ニ銃後國民ノ光榮アル義務トシテ欣快之ニ過グルモノハナイノデアリマス、併シナガラ本案ヲ繞リテ、仔細ニ之ヲ檢討致シマスルナラバ、尙ホ幾多ノ疑問ナキヲ得ナイノデアリマス、先ヅ其ノ第一ト致シマシテ、課稅ト國民精神トノ關係ニ付デアリマス、只今石坂君ノ御質問ニ對シ總理ノ御答辯ヲ得タノデアリマスガ、私ハ之ニ對シマシテ諒承致シ兼ネマスルガ故ニ、他ノ角度ヨリ御尋致シテ見タイノデアリマス、申スマデモナク租稅ハ公債ト異リ、國民ガ國家ニ對シ其ノ購買力ヲ直接間接ニ無償デ提供スルモノデアリマスガ故ニ、先ヅ國民ニ國民的士氣國民精神ノ昂揚ガナケレバ、如何ニ稅制ニ新裝ヲ施シマシテ之ヲ完備致シマシテモ、或ハ又徵稅機關ガ如何ニ四苦八苦致シマシテモ、或ハ稅法違反者ニ對シテ嚴罰ヲ以テ臨ミマシテモ、到底租稅政策ノ所期スル目的ヲ圓滿ニ遂行スルコトハ出來ナイノデアリマス、故ニ戰時下ニ於テ國民緊張ノ秋ニ當リマシテモ、國民ノ經濟生活ニ對シ畫期的重大變動ヲ與フルガ如キ稅制改革ヲ斷行致ス際ニ當リマシテハ、先ヅ基礎的根本的要件ト致シマシテ、國民ノ志氣ヲ鼓舞シ、國民精神ノ昂揚ヲ企圖致シ、國家ノ運命ヲ左右スル國家經費ノ分擔ニ對シ、欣然之ニ寄與セシメ、又長期大消耗戰ニ對處スル爲ニ、消費經濟ノ方面ニ於テ、國民ニ自主的道德的節約ヲ爲サシムル所ノ時局的總力戰的決意ト訓練ヲ與ヘマスコトハ、正ニ重大ナル戰時財政政策、戰時租稅政策ノ根幹ト言ハネバナナノデアリマス(拍手)私ハ斯ノ如キ見地ニ立チマシテ、二三事例ヲ擧ゲ政府ノ

所信ヲ承リタイノデアリマス
先ヅ稅制ハ其ノ時宜ヲ制セネバナラスト云フコトデアリマス、例ヘバ獨逸ハ世界大戰勃發後其ノ戰費支辨ノ爲ニ、國民的緊張ノ秋ニ於テ増稅ノ堅陣ヲ張ルコトナク、漫然公債支辨主義ヲ以テ之ヲ彌縫糊塗致シ、戰ガ漸ク長期膠着狀態ニ入りマシテ、國民ノ士氣衰へ掛リ、且又時既ニ惡性「インフレ」ノ徵候ガ現ハレ、政府ノ之ニ對スル施策其ノ當ヲ得ズ、隨テ時難克服ニ對スル國民的士氣ヲ沮喪セザルヲ得ナイ時ニ於キマシテ大増稅ヲ敢行致シマシタガ故ニ、遂ニ獨逸國民モ腐ラザルヲ得ナカツタノデアリマス、顧ミテ今次ノ事變勃發以來國內情勢ノ動向ヲ凝視致シ、更ニ事變勃發以來滿三箇年ニ垂ントシテ、漸ク此ノ稅制案ノ提案ヲ見タ事實ヲ繞リテ考慮致シマスルナラバ、時ト國內情勢ノ相違コソアレ、我國モ亦獨逸ノ場合ノ如ク、其ノ時宜ヲ失セザルヤノ憂慮ヲ禁ジ得ナイノデアリマス、果シテ然リトセバ、此ノ稅制案ノ使命ヲ圓滿ニ遂行スル爲ニハ、斷乎國民精神ヲ昂揚シテ萬算ナキヲ期セネバナラスト信ズルノデアリマス、先ヅ此ノ點ニ對シマシテ當局ノ御所信ヲ承リタイノデアリマス
次ニ國內政情ノ不安、課稅ト形影相伴フ政策ノ不確立モ亦、租稅政策ノ價值ヲ動搖セシメザルヲ得ナイノデアリマス、然ルニ事變勃發以來我國ノ國內政情ハ實ニ端倪スベカラザル程浮動致シ、隨テ内閣ノ更迭ハ頻々トシテ行ハレ、爲ニ其ノ主義政策ノ樹立斷行ノ如キハ、唯目前焦眉ノ急ヲ彌縫糊塗スルニ止リマシテ、戰時國內體制ノ強化ヤ、或ハ事變處理ノ要請スル國家革新ノ根本的政策ノ如キニ至リマシテハ、或ハ之ヲ

高閣ニ束ネ、或ハ出沒常ナク、爲ニ國民ハ其ノ嚮フ所ニ惑ハザルヲ得ナカツタノデアリマス、故ニ從來官僚獨善ノ聲ハ都鄙ニ滿チ、或ハ閣取引ハ公然ト秘密トシテ行ハレ、或ハ又脫稅、其ノ他統制法規違反ノ所爲ガ所在ニ頻出致シマシテ、曠古未曾有ノ國難ニ處セル我が民族ノ眞ノ姿トモ思ヘザルガ如キ事態ヲ生起セシメタルガ如キハ、單リ國民ニミ其ノ責任存スルヤ否ヤ、ソレトモ大政變理ノ重責ヲ負擔致シ、確乎不動ノ信念ト、適切妥當ノ政策ヲ堅持シテ國民ヲ指導シ、官僚ヲ指令スベキ答ノ政府ニ、政治又ハ政策ノ貧困ガ存シタルガ爲ニ因ルカ、知ラズ、米内内閣ハ此ノ前轍ニ鑑ミ、今後如何ナル所信態度ヲ以テ此ノ時難克服ニ邁進遊バサレノデアリマスカ、私ハ二月一日以來本議場ニ於テ政府ノ御答辯ニ依ル議場ノ騷然タル様ヲ見テ、其ノ責任必ズシモ議員側ニノミ存セザルコトヲ思ヒ、更ニ今ヤ内外時局ハ右顧左盼唯調查研究ニ名ヲ藉リテ、政策又ハ政治ノ貧困ヲ粉飾スルコトヲ許サザル程ニ緊迫セルコトヲ思ヒマスル時ニ、政府ガ國民ニ向ツテ不退轉ノ意氣ヲ説キ、又減私奉公ヲ示唆スルコトハ宜シ、サレド政府モ亦自ラ不退轉ノ意氣ヲ持チ、更ニ確乎不動ノ政策ヲ堅持シテ國民ヲ指導シ、官僚ヲ指令統率シテ此ノ時難克服ニ邁進セラレシコトヲ望ムノデアリマス、而シテ又國家ノ爲ニハ生命ヲ賭シテモ顧ミザル我國民ハ此ノ聖戰目的ノ爲ニ眞ニ必要ニシテ適切妥當ナル國策ノ樹立サヘアラバ、欣然之ヲ支持協力致シ、其ノ經費ノ分擔ノ如キハ斷ジテ吝ムモノデハナイト云フコトヲ、政府ハ再思三考スベキデアリマ

ス
次ニ思想ノ對立抗爭ト其ノ混沌モ亦租稅政策ノ價值ヲ動搖セシメザルヲ得ナイノデアリマス、申スマデモナク租稅政策ハ財政政策ノ一部デアリ、財政政策ハ國家政策ノ一部デアリマスガ故ニ、租稅制度改革ハ、ソレガ租稅制度ノ範疇ニ於テ妥當ナル合目的性ヲ有スルニ止マラズ、更ニ進ンデ其ノ優位ニ在ル財政政策、國家政策ノ拘束ヲ受クベキコトハ申スマデモナイノデアリマス、隨テ民主主義國家ニハ民主主義國家トシテノ租稅制度ガ行ハレ、或ハ社會主義國ニハ社會主義國家トシテノ租稅制度ガ存シ、更ニ所謂全體主義國家ニハ、其ノ獨特ノ租稅制度ヲ見ルコトモ亦當然ト謂ヘネバナリマセヌ、故ニ千九百十六年六月獨逸ニ於テ初メテ賣上稅ヲ創設致シマシタ際ニ、時ノ社會民主黨ハ之ヲ呼ンデ刑罰稅ト稱シ、而シテ對外貿易ヲ阻碍シ、小商人ヲ壓迫スルノミナラズ、其ノ負擔ハ益々弱者ニ轉嫁サレテ、國民ハ長ク其ノ苦痛ニ惱ムモノナリトシテ反對シマシタコトモ首肯シ得ルノデアリマス、併シ主義ヤ「イデオロギー」ハ飽クマデモ思想的指導原理デアリマスルカラ、之ヲ如何ニ實際ニ具現スルカニ付キマシテハ、更ニ其ノ實踐的、具體的指導原理ヲ要スルノデアリマス、凡ソ政治或ハ政策ノ貧困トハ、思想的ノ指導原理ハアルガ、其ノ實踐的、具體的指導原理ノナイ場合ニ於テ生ジ、而シテ一切ノ政治的、經濟的、社會的不安動搖、相剋摩擦ノ禍根ハ茲ニ胚胎スト信ジマスガ故ニ、主義、主張ノ對立抗爭又ハ其ノ混沌ハ、躍進國家ノ陣痛ト致シマシテ不可避デアリマスルケレドモ、併シ其ノ調整ト指導統一ニ對シマシテハ、萬全ヲ期サネバナリマセヌ、然ルニ輒近我國思想界ノ動向

ヲ見マスルニ、各種ノ「イズム」ヤ「イデオロギー」ノ對立抗爭ト、其ノ混沌迷ハ蓋シ今日ヨリ甚シキハナシト思フノデアリマス、例ヘバ個人主義アリ、或ハ自由主義アリ、或ハ今尙ホ清算サレザル資本主義アリ、或ハ國家革新ヲ説ク全體主義モアルノデアリマス、而シテ其ノ中ニ於キマシテモ、或ハ民族主義ヨリ發足セルアリ、或ハ社會主義ノ亞流ヨリ來レルモノアリ、或ハ獨逸ノ「ナチズム」ニ歸依シ、或ハ伊太利ノ「ファシズム」ニ其ノ流レヲ汲ムモノ等ガアリマシテ、洵ニ我が長期大消耗戰下ニ於ケル我が國情、國策ニ、必ズシモ妥當セザルモノナシトシナイノデアリマス、果シテ然リトセバ政府ハ此ノ各種ノ「イズム」或ハ「イデオロギー」ノ對立抗爭、或ハ混沌迷ヲ如何ニ調整シ、指導シ、以テ之ヲ財政政策、租稅政策ニ反映セシメテ、此ノ稅革新ノ目的ヲ圓滿ニ遂行セント爲サルノデアルカ、私ハ獨逸ノ財政竝ニ稅制ガ「マルクス」主義ヲ絶滅シ、社會的階級闘爭ヲ根絶シテ、初メテ可能ニナリマシタコトヲ想起致シ、更ニ滅私奉公ヲ説ク聖戰下ノ我國ニ於テ、例ヘバ股販商工業ニ惠マレテ利潤ハアルガ、總動員法第十一條ノ發動ニ依リテ配當シ得ズ、サリトテ之ヲ積立テ爾時ハ益、租稅ノ負擔ガ加ハリマスガ故ニ、結局人件費其ノ他ノ經費ニ支出シ、而シテ不急不要ノ購買力ニ逃避セシメシトスルガ如キ資本主義的害惡ガ、今尙ホ所在ニアルコトニ想到スル時ニ、益、以テ其ノ根柢ヲ成ス思想調整ノ急務ヲ痛感スルノデアリマス、殊ニ又今々長期大消耗戰ニ邁進致シテ居リマスル我國現下ノ内外諸政策ハ、惡性「インフレーション」ノ昂進ニ依リマシテ、致命的

打撃ヲ受ケルニモ拘リマセズ、今ヤ所謂國民ノ潜在購買力ハ、公債ノ増發、貯蓄ノ獎勵ニ依リマシテ益、是ガ巨額ニ達シテ、潜在購買力ニ放出セシメザルハ、一ニ國民ノ道義心ニ俟ツコトヲ考ヘマス時ニ、益、以テ此ノ國民精神ノ昂揚ヲ圖リ、以テ今ヤ潜在期待セル危險ト、覆面ノ害惡ヲ一掃セネバナラナイト信ズルノデアリマス、而シテ私ハ之ヲ以テ今次ノ稅革新ノ根本的、基礎的條件ト確信スル者デアリマス、先般來本議場ニ於キマシテ、或ハ總理ノ御答辯ニ依リ、或ハ同僚議員ノ御質問ニ示唆サレタル所ニ依リマシテ、私ハ大イニ啓發ヲ受ケタルデアリマス、併シ私ノ當局ニ御同致サントスル所ハ、假令時局認識ノ深サト廣サハドウデアラウトモ、今次ノ戰爭ハ今ヤ我が國家ニ火ガ燃エ付イテ居ル、或ハ曠古未會有ノ國難デアルト云フコトハ、三尺ノ童子ト雖モ之ヲ辨ヘテ居ルト信ジマスルガ故ニ、例ヘバ燃エ盛ル火事ヲ消シニ行カントスル者ハ、何人ト雖モ其ノ火事ノ原因トカ、鎮火後ノ處置ナドヲ穿鑿スルコトナク、唯一途ニ火事ヲ消スコトニ全力ヲ注ギ、是レ努メルト云フガ如クニ、官民擧ツテ此ノ曠古未會有ノ國難ニ赴キ、身ヲ挺シテ今ヤ難航ヲ續ケル國家ノ運命ヲ富強ノ安キニ置クコトニ専念スル國民的士氣、國民的意氣ヲ、如何ニスレバ喚起セシメ得ルカト云フコトヲ御尋致シタイノデアリマス

○議長(小山松壽君) 藤本君——藤本君ニ御注意致シマス、質疑ノ要點ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

〔早ク本論ニ入ルベシ〕ト呼ヒ其ノ他發言スル者アリ

○藤本捨助君(續) 承知シマシタ——私ハ只今申述ベマシタヤウナ國民的士氣、國民的自覺ヲ、如何ニスレバ國民ヲシテ喚起セシメ、發揮セシメ得ルカ、而シテ時局ガ深刻化スレバスル程、更ニ強ク之ヲ發揮又ハ喚起セシメ得ルカト云フコトニ付、而シテ其ノ必要ナルコト今日ヨリ甚シキハナイト云フコトニ付テ承リタイト思フノデアリマス

次ニ第二點ト致シマシテ、財產稅ヲ創設セザル理由ニ付テ承リタイノデアリマス、先刻田万君ヨリ體系の理論ヲ提ゲテ御演説ニ相成リマシタガ、私ハ角度ヲ變ヘテ御同致シマス、從來財產稅ヲ創設スルコトニ付キマシテハ、其ノ反對理論トシテ、或ハ稅源ノ涸渴、或ハ課稅方法上ニ於ケル技術的困難、或ハ收益財產タル土地或ハ建物、營業ニ對シテハ收益稅アリト云フガ如キ反對理由ガアツタノデアリマス、併シ一千九百十三年ニ於ケル獨逸ノ國防稅、或ハ一千九百十九年ニ於ケル獨逸ノ緊急犧牲稅ノ如キハ姑ク之ヲ措キマシテ、所謂個人ノ經常的財產稅ノ創設ハ、現下ニ於ケル我が國ノ租稅政策上、又社會政策上、最早理論ノ時代デナク、實行ノ時代デアルト確信スル者デアリマス、申スマデモナク稅ハ國民ノ國家ニ對スル財貨ノ無償提供デアリマスガ故ニ、如何ナル稅デアリマシテモ、理論的ニ或ハ實際的ニ、更ニ之ニ自由主義、個人主義、資本主義等ノ理論ガ反映致シマス時ニ、所詮兎角ノ異論ハ免レナイノデアリマス、併シナガラ國家ノ運命ハ少數ノ國民ノ不平ニ依リヨリモ、多數ノ國民ノ不平憤激ニ依ツテ危殆ヲ瀕シ、或ハ歐洲諸國ノ史實ニ徴シマシテモ、其ノ政治的、社會的の革命ノ重大ナル原

因ノ一ハ、少數ノ有產國民ニ對スル多數ノ無產國民ノ呪咀憤激ニアツタ事實ヲ見逃シテハナラナイノデアリマス、(拍手)而シテ私ハ現下ノ殊ニ長期大消耗戰下ニ於ケル我が國內ノ情勢ヲ熟、凝視致シマス時ニ、今ヤ内外荊棘ニ滿テル道ヲ歩メル我が國家ノ爲ニ、實ニ深憂ニ堪ヘナイモノガアルノデアリマス、故ニ今ヤ滔々トシテ險惡化スル社會相ヲ緩和致ス思想的、社會政策の方策ト致シマシテ此ノ際輕微ナル財產稅ヲ創設致シマスコトハ、而シテ所謂輕微ナル異進課稅或ハ免稅點ノ設置、或ハ債務ノ控除、個人的事情ノ斟酌、更ニ都會ノ新成金ト、田舎ノ舊家トノ關係ノ考慮等ヲ行ヒ、所謂財產稅ガ財產ヲ喰潰サザルヤウニ十二分ニ配意致シマシテ、財產稅ヲ此ノ際創設致シマスコトハ、財產稅ガ本來色々ノ長所ヲ持ツテ居ルト云フ以上ニ、其ノ急務ヲ痛感スル者デアリマス、然ルニ今同ノ稅革新ニ於キマシテハ、財產稅ノ創設ヲ見ナイノデアリマスガ、ソレハ如何ナル理由ニ依ルノデアリマスカ、大藏大臣ニ御尋致シタイノデアリマス、更ニ負擔ノ均衡ハ租稅原則上金科玉條ニサレテ居ルノデアリ、今次ノ稅革新ニ於キマシテモ、四大原則ノ一ツニナツテ居ルノデアリマスガ、果シテ然ラバ此ノ原則カラ申シマシテモ小所得者、即チ中央地方ノ中小ノ商工業者、或ハ俸給賃銀生活者、或ハ農山漁村ノ少額所得者ノ如キハ申スマデモナク、相對的ニ多額ノ消費稅ヲ納メテ居ルノデアリマス、而モ之ニ對シテ尙且ツ分類所得稅ヲ設ケテ重壓セシムルト云フコトカラ考ヘマシテモ、恒久的ナ多額ノ財產ヲ持ツテ居ル者ニ對シテハ——而シテ今ヤ自然増加ノ顯著ナル今日ニ於キマシテハ、財產稅

ヲ創設スルコトハ、其ノ負擔ノ均衡上ヨリ見テモ最モ急務デアルト信ズルノデアリマス(ヒヤ／＼)私ハ此ノ點ニ付キマシテ政府ノ御所信ヲ伺ヒ、更ニ此ノ機會ヲ借リマシテ一言附加ヘタイコトガアリマス、即チ分類所得稅ニ依リマシテ、其ノ重壓ヲ受ケル者ハ主トシテ中等階級デアリ、知識階級デアリマス、其ノ中ニ於キマシテハ、平和産業、時局股賑商工業ニ惠マレザル所謂犧牲産業、斯様ナモノニアリマシテハ、其ノ事業ガ今ヤ疲弊困頓致シ、或ハ俸給賃銀ノ不增加、物價ノ暴騰ニ依ル實質的ノ減俸ニ悩ム者等アリマシテ、今ヤ中等階級ハ疲弊困頓ノ一途ヲ迫ツテ居ルト云フコトニ對シテ、當局ハ如何ニ御覽ニナルノデアルカ、而シテ長期大消耗戰ニ於テ、世相ガ險惡化スレバスル程、此ノ中等階級ノ國家的使命ハ益々重且ツ大ヲ加ヘルト云フコトニ對シテ、當局ハ如何ニ御覽ニナルカ(拍手)更ニ中等階級ノ使命ガ益々重且ツ大ヲ加フルニモ拘ラズ、其ノ生活ノ疲弊困頓ノ如キデアルトスルナラバ、是レ戰時下ニ於ケル國家ノ一大疾患デハナイカ、或ハ又矛盾デハナイカ、而シテ尙且ツ之ニ分類所得稅ヲ課セザルヲ得ナイトスルナラバ、其ノ稅率ニ於テ、免稅點ニ於テ、特ニ考慮ヲ拂フベキデアルガ、今次稅率ニ現ハレタル免稅點或ハ稅率ニ於テハ、果シテソレガ適當デアルカドウカ、御答ヲ願ヒタイノデアリマス

十二年六月僅ニ一千万圓程度デアリマシタル不換紙幣ハ、昭和十四年三月ニ於キマシテハ實ニ一億三千万圓ヲ突破シ、今ヤ巨額ニ達シテ居ルノデアリマス、申スマデモナク不換紙幣ハ租稅ノ如クニ國民ニ直接負擔ヲ及ボシマセヌ外觀ヲ有シテ居リマスガ故ニ、國民側ノ反對モナク次第ニ増發サレテ居ルノデアリマス、併シ不換紙幣ハ一面ニ於キマシテ、租稅ト同様ナル效果ヲ有スルコトヲ認メネバナリマセヌ、ト言ヒマスノハ、政府ハ不換紙幣ト引換ヘニ、國民ノ物資努力ヲ獲得シ得ルカラデアリマス、又不換紙幣ハ惡稅以上ノ作用ヲ有スルコトヲ看過シテハナラナイノデアリマス、即チ是ガ爲ニ通貨ノ膨脹ヲ來シ、茲ニ惡性「インフレーション」ノ一翼ヲ致シ、而シテ或ハ公債ノ實質的負擔ヲ輕減シ、其ノ程度ニ於キマシテ公債ノ實質的破棄ヲ結果スルノデアリマス、或ハ國家ノ財政政策上、租稅收入ノ實質的價值ノ減少ト經費ノ膨脹高ヲ招來致スノデアリマス、蓋シ直接稅ニ於キマシテハ徵稅計畫後數箇月ノ後ニ徵收サレマスガ故ニ、稅率ノ在定當時ト現實ニ徵收サレル其ノ間ニ於テ貨幣價值ノ下落ガアリマシテ、其ノ兩時ノ差額ダケハ國家ノ租稅收入ノ實質的減少トナリ、隨テ國家ノ歲入ニ不足ヲ生ゼシムルハ勿論、國家ガ其ノ政策ノ實行ヲ擴張シナイ場合ニ於キマシテモ、ソレダケ經費高ヲ膨脹セシメマシテ、國家ノ歲出ヲ増大セシメルカラデアリマス、且又通貨ノ膨脹、貨幣價值ノ下落、物價騰貴、經濟現象ハ、更ニ消費者、或ハ貨幣資本所有者、或ハ俸給賃銀生活者ニ犧牲ヲ及ボシマシテ、恰

モ彼等ニ消費稅ヲ課シタルト同様ナル結果ヲ與ヘルノデアリマス、而モ斯ノ如キ場合ハ一般消費稅ト異リマシテ、何人ニモ影響ヲ及ボシ、而シテ之ニ對處シ得ス者ニアリマシテハ、何人モ一樣ニ其ノ害惡ヲ受ケマスガ故ニ、正ニ惡稅以上ノ作用ヲ有スルト認メナケレバナラナイノデアリマス(拍手)果シテ然リトスレバ、政府ハ今回ノ課稅ニ依リマシテ國民ノ購買力ヲ奪ハントスルノデアルガ、國民ニ購買力ヲ與ヘル不換紙幣ノ現在並ニ將來ニ對シテ如何ナル態度ヲ御執リニナルカ、御尋致シタイノデアリマス

次ニ第四點ト致シマシテ、戰爭ニ依リマシテ地方自治體ノ財源ガ豐富ニナツタモノガアリマス、之ヲ中央ノ國家經費ニ移讓スル意思ナキヤ否ヤト云フコトニ付テ御伺致シマス、負擔均衡ノ課稅原則ハ人ノ正義觀念ノ時代的變遷、或ハ輒近社會政策ノ進展ニ伴ヒマシテ、或ハ超過稅、或ハ累進稅ノ理論的根據ヲ提供致シ、更ニ世界大戰以來ハ戰時政策ノ反映ト致シマシテ、或ハ戰時、或ハ臨時ノ利得稅ヲ創設セシメタコトハ、東西比々皆然リデアリマス、即チ個人ト云ハズ、法人ト云ハズ、其ノ能力ニ應ジテ國家經費ノ分擔ニ寄與致シテ居ルノデアリマスガ、此ノ原則ハ獨リ個人又ハ法人ニ限ラズ、苟クモ國家組織中、擔稅能力ノアル所ハ即チ納稅義務ノアル所トシテ之ヲ展開致シ、彼ノ地方團體ノ如キニ於キマシテモ、若シ其ノ財力ニ餘力ガアルナラバ、之ヲ移シテ國家經費ノ分擔ニ任ゼシメルベキデアルト信ズルノデアリマス(拍手)殊ニ事變下ニ於キマシテ國家經費ハ急増致シ、地方ノ團體ガ戰爭ノ爲ニ利益ヲ受ケタルガ如キ場合ニ於テハ、特ニ然リト言ハネバナリマセヌ、果シテ然リトセバ、聖戰下ニ於テ所謂股賑商工業ニ惠マレテ急増シタル地方自治團體ノ戰時收入ノ如キハ、一定ノ基準率ヲ設ケ、ソレヲ超過スル部分ハ之ヲ移シテ國家經費ニ移讓スベキデアルト信ズルノデアリマス(拍手)當局ニ御答辯ヲ煩ハシタイノデアリマス

更ニ課稅ノ基礎デアアル利益計算ヲ正確ニ致ス爲ニ如何ナル方策アリヤト云フコトヲ承リタイノデアリマス、之ニ付キマシテハ石坂君ヨリ御質問ガアリマシタガ、私ハ角度ヲ變ヘテ申上ゲタイノデアリマス、今次ノ稅率ニ於ケル重點ノ一ツトシマシテ、稅收入ノ増加ヲ圖ル爲ニ、或ハ稅率ノ引上、或ハ國民皆稅主義ヲ徹底致シマシタルナド、甚ダ其ノ勞ヲ多トスルノデアリマスガ、併シナガラ最モ根本的ナル核心ヲ衝カザル遺憾ナシトシナイノデアリマス、即チ有ユル稅率ノ適用サレル利益計算ニ對シマシテ、何等新機軸ヲ發見シ得ナイカラデアリマス、隨テ是ガ爲ニ、今マデモアツタコトデハアリマスルガ、今後ハ尙更納稅義務者中ニハ、或ハ稅率ノ引上ニ依リテ失フ所ヲ、利益計算「ルーズ」ニスルコトニ依ツテ「カバー」セントスルニ至ルヤモ知レズ、隨テ國民ノ道義心ヲ毀損スルハ勿論、稅率ノ引上ニ依リテ得ル所ノ稅收ノ増加ハ、是ガ爲ニ減殺セラレルカラデアリマス、故ニ政府ハ稅收増加ノ目的ヲ唯課稅技術上ニミ求メズ、更ニ百尺竿頭一步ヲ進メマシテ、其ノ基礎ヲ成ス所ノ利益計算ノ正確ヲ期スル爲、茲ニ各種營業者ニ對スル監査制度ノ創設、或ハ各種營業態別ニ依ル會計計理ノ方式ヲ規制スルナド、新シキ構想工夫ヲ爲スベキデア

ルト信ズルノデス(拍手)政府ノ御所信ヲ承
リタイノデス

更ニ實行豫算編成ニ因ル國家ノ租稅政策
ニ及ボス影響ニ對シテ如何ナル用意アリヤ
ト云フコトヲ承リマズ、藏相ハ本議場ニ於
キマシテ、只今ノ所實行豫算ヲ編成スル
意思ナシト仰セラレタノデアリマス、併
シ現下ニ於ケル經濟界ノ諸現象ヲ檢討致
シ、更ニ物資ノ不足ニ對應シマシテ、惡性
「インフレ」ノ昂進ヲ通貨ノ側ニ於テ阻止
スル必要ヲ痛感致シマス時ニ、近キ將來
ニ於キマシテ成立豫算ノ實行豫算化サレマ
スコトハ何人モ想像シ得ルノデアリマス、
果シテ然リトセバ財政政策ノ一部デアル租
稅政策ハ、重大ナル影響ヲ受クベキコトハ
申スマデモナイノデアリマス、即チ案ノ如
ク近イ將來ニ於キマシテ成立豫算ガ實行豫
算化サレマスルナラバ、而シテソレガ爲ニ豫
算ノ緊縮ガ行ハレマスルナラバ、之ニ伴ヒ
直接間接ニ事業ノ縮小、閉鎖、或ハ失業者
ノ放出ヲ不可避トナラシムルノデアリマ
ス、其ノ社會的影響ハ姑ク措クト致シマシ
テ、是ガ爲ニ個人ト云ハズ或ハ法人ト云ハ
ズ、其ノ擔稅能力ニ異變ヲ生ゼシメ、隨テ
國家ノ徵稅計畫ヲ顛倒セシメマシテ、國家
ノ歲入ニ不足ヲ生ゼシムルハ勿論、或ハ失
業者救済等ノ社會政策費ノ増大ヲ結果スル
ニ至ルヤモ測リ知レナイノデアリマス、政府
ハ近ク實行豫算編成ニ當リマシテ、斯ノ如
キ場合ナシト御考ニナルカ、若シアルトス
ルナラバ、如何ナル用意ガアルカト云フコ
トヲ御尋致シタイノデアリマス

其ノ他色々御尋ネ致シタイコトガアリマ
スルガ、重複致ス嫌ヒガアリマスルノデ、
是デ私ノ質問ヲ打切りマス、第一點、即チ

課稅ト國民精神ノ關係ニ付キマシテハ總理
大臣並ニ文部大臣ノ御懇篤ナル御答辯ヲ煩
ハシマス、其ノ外ハ大藏大臣ノ明確ナル御
答辯ヲ煩ハシマシテ降壇致シマス(拍手)

(國務大臣櫻內幸雄君登壇)

○國務大臣(櫻內幸雄君) 私ニ對スル御質
問ニ對シテ答辯致シマス、第一ハ財産稅ヲ
ナゼ創設シナイカト云フ話デアリマスガ、
是ハ度々申上ゲマシタ通り、財産稅ハ無收
益ノ財産ニ對シテモ課稅スル一ツノ方法ト
シテハ洵ニ宜イノデアリマスケレドモ、元
來ガ元本ニ稅ヲ課スル關係上高率ナ課稅ヲ
スル譯ニハ行キマセヌ、又之ヲ實行致スニ
付キマシテハ相當困難ナ點ガアリマスノ
デ、今回ハ之ヲ採用シナカッタノデアリマス
分類稅ハ少額所得者ニ過重デハナイカト
云フ御話デアリマスルガ、今回ノ分類所得稅
ニ於テ、其ノ負擔ノ範圍ヲ擴ゲテ、比較的
少イ所得者ノ方ニ擔稅ヲシテ載クト云フコ
トハ、甚ダ吾等トシテハ心苦シイ次第デア
リマスケレドモ、今日ノ時代已ムヲ得ナイ
コトデアリマシテ、此ノ程度ノ稅金ハ喜ン
デ其ノ負擔ニ任ジテ下サルと思フノデアリマ
ス、不換紙幣ノ増發ニ付テ云々ト云フ話デア
リマスガ、此ノ問題ハ有ユル手段ヲ以テ其
ノ増發ヲ防ギタイト考ヘテ居リマス
利益計算ニ對シテ監査制度ヲ設ケテハド
ウデアルカ、是ハ御尤モナ御意見デアリマ
スガ、今日此ノ利益計算ニ對スル監査ノ方法
ニ付キマシテハ、十分注意ヲ致シテ居リマ
シテ、今後ト雖モ其ノ爲ニ不都合ヲ生ズル
ヤウナコトノナイヤウニ致シタイと思ツテ
居リマス
ソレカラ實行豫算ノ問題ニ付テ御話ガゴ
ザイマシタガ、只今ノ所ハ實行豫算ヲ設ク

ル考ヲ持ツテ居リマセヌガ、豫算ノ實行ニ
當リマシテハ、十分ニ注意ヲ致シマシテ、
一厘一毛ト雖モ苟モシナイヤウニ致シ、而
シテ此ノ豫算ガ圓滿ニ實行致サレルヤウニ
致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

(國務大臣松浦鐵次郎君登壇)

○國務大臣(松浦鐵次郎君) 只今ノ御質問
中、納稅ト國民精神ト云フモノノ關係ニ付
テ、政府ハ如何ニスルカト云フ趣旨ノ御質
問ガゴザイマシタ、今回ノ稅制改正ニ依ッ
テ租稅ガ増加致シマシタ、是ハ一面カラ申
セバ國民ニ取リマシテハ一ツノ苦痛デア
ルト云フコトハ、是ハ免ルベカラザルコトデ
アルト存ズルノデアリマスガ、併シナガラ
今日我國ハ興亞ノ聖戰ニ從事致シテ居ルノ
デアリマシテ、所謂東亞ノ新秩序ノ聖業ヲ
完遂スルコト云フ、大キナ使命ヲ持ツテ居
ルノデアリマスルカラ、是ニハ租稅ノ増徴
ト云フコトモ實ニ已ムヲ得ザル事柄デア
ル、國民ト致シマシテモ此ノ聖業ノ完遂ノ
爲ニハ、苦痛ヲ忍ビデモ一致協力ヲスルト
云フ、所謂時局ノ認識ニ徹底シテ、必ズヤ
サウ云フ自覺ヲ持ツテ居ラレコトト存ズ
ルノデアリマスルガ、併シナガラ尙ホ此ノ
精神ヲ徹底セシメマスル爲ニハ、政府ト致
シマシテハ有ユル機關ヲ通ジ、有ユル方法
ヲ執リマシテ、此ノ所謂精神昂揚ノ徹底ニ
努メタイ考デゴザイマス(拍手)

(國務大臣伯爾兒玉秀雄君登壇)

○國務大臣(伯爾兒玉秀雄君) 殷實產業ノ
發達シタル諸團體ニ對シテ、一定以上ノ増
收ニ對シハ國デ捲上ゲタラドウカト云フ御
質問ニ對シマシテ御答致シマス、租稅ノ性
質ト致シテ、經濟上豐富ノ地域カラ多額ノ
收入ヲ得ベキ所得稅ニ對シマシテハ、今回

ノ改正法案ニ於キマシテ附加稅ヲ徵收セザ
ルコトニ取極メテ居ルノデアリマス、隨テ殷實產
業ノ多イ地方ニ對シマシテモ、不當ニ財源ガ集
中スルコトノナイヤウナ建前ニナツテ居リ
マス、又地方財政上ノ關係カラ見マシテモ、
斯ル富裕ナル團體ニ於キマシテハ、各種ノ施設
ヲ要スルコトガ多ク、是ガ爲ニ相當ノ經費ノ
増大ヲ見ルコトデアリマスカラ、財政上收
支ノ關係カラ見マシテモ、此ノ改正ヲ適
當ト思ヒマスルノデ、隨テ更ニ新ニ是等ノ
地方團體ヨリ増加收入ヲ捲上ゲルト云フヤ
ウナ必要ハナイト考ヘテ居リマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 是ニテ質疑ハ終了致
シマシタ、各案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ
選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎南君 日程第一乃至第三十一ノ各
案ヲ一括シテ議長指名四十五名ノ委員ニ付
託サレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、是ニテ議
事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日程
ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ
散會致シマス
午後五時三十一分散會

衆議院議事速記第九號中正誤

頁	段	行	誤	正
一六	欄外	關シ	關スル	
一五	四	七六	第二十條	第二十一條
一五	四	一七	經濟費	經費
一五	三	二五	額ノ	多額ノ
一五	三	一八	取引所稅中取	取引所稅中取
一五	一	五	還付稅分與金	還付稅分與金